

# 近野遺跡

発掘調査報告書

平成14年度

青森市教育委員会



青森市埋蔵文化財調査報告書 第68集

ち　か　　の  
**近　野　遺　跡**

発掘調査報告書

平成 14 年度

青森市教育委員会



## 序

青森市西部は、国指定特別史跡三内丸山遺跡をはじめとし、多数の遺跡が確認されている、市内でも有数の遺跡密集地帯であります。

これまで、東北縦貫自動車道建設など、大規模な発掘調査が度々行われてあります。

そのような中、当委員会においては、三内丸山遺跡に隣接する近野遺跡について分譲宅地開発に先立ち遺跡の記録保存を図るため、今年度発掘調査を実施いたしました。本書はその発掘調査の成果をまとめたものであります。

近野遺跡は、広範囲にわたる遺跡でありますが、今年度は青森県においても別地点において発掘調査を実施しており、水さらし場遺構が検出され広い注目を集めています。

当委員会では、近野遺跡の東端に相当する地点の調査を実施しており、調査の結果、竪穴式住居跡、土坑などの遺構を検出し、また、縄文時代前期、中期の土器や石器等の遺物が出土しております。

本書が、今後の埋蔵文化財の保護並びに活用に役立つことができれば幸いと存じます。

最後となりましたが、調査の実施から本書の作成にわたる、調査員、関係各機関並びに各位からのご指導、地元各町会からのご協力、さらに工事主体者であります手塚 宇一郎 氏のご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎



## 例　　言

1. 本書は、民間事業（分譲宅地開発）に係り平成14年度に青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市大字安田字近野に所在する近野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の遺跡番号は、01065である。
3. 本書の執筆並びに編集は、青森市教育委員会が行った。小野貴之が担当した。
4. 調査区におけるグリッドの設定については、平成14年度青森県が実施した近野遺跡発掘調査における設定を譲り受け、それを拡張した。従い、遺構図等における方位は、平面直角座標第X系の座標系上の北となる。（青森県教育委員会 2002 近野遺跡VI）磁北については、約8°西偏する。なお第1図及び第3図は上辺が真北である。測量原点（B. M.）は、青森市地盤沈下観測用水準点No.64より原点移動を行い設置した。
5. 土層の注記については、「新版標準土色帳」（小山正忠、竹原秀雄1993）に準拠した。
6. 各遺構の計測値については、原則的に確認面から計測した数値である。
7. 遺構番号は、原則的に遺構の種別毎に、確認順に番号を付した。
8. 図版番号及び表番号は、原則的に「第○図」、「第○表」とし、順番に通し番号を付した。
9. 拝図の縮尺は、各図毎に示した。また、写真図版の縮尺については統一を図っていない。
10. 石器の石質鑑定については、青森県総合学校教育センター指導主事 工藤 一彌氏に依頼した。
11. 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森市教育委員会で保管している。
12. 発掘調査及び報告書の作成にあたって次の各機関・各氏からご指導・ご教示・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する（順不同・敬称略）。

青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・西近野町会・太田原 潤・成田 滋彦

## 凡例

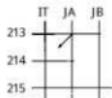
1. 本報告書内で使用する、スクリーントーン・表現方法・略称は以下のとおりである。

(1) 図中で使用したスクリーントーン



(2) グリッドの呼称

(例) JA-213グリッド



(3) 図中、表中に使用した遺構の略称

「第○号竪穴式住居跡」→「○住」 「第○号土坑」→「○土」 「第○号小ピット」→「ピット○」

(4) 図中で使用したアルファベットを用いた略称

P... 土器 S... 石器 L B... ロームブロック

(5) 石器計測表中の器種の略称

「不定形石器」→「不定形」、「半円状扁平打製石器」→「半円」

(6) 石器計測表中の石質の略称

「珪質頁岩」→「珪・頁」 「頁岩」→「頁」 「玉髓」→「玉」 「砂岩」→「砂」  
「安山岩」→「安」 「泥岩」→「泥」 「凝灰岩」→「凝」 「閃綠岩」→「閃」  
「輝綠凝灰岩」→「輝・凝」 「変朽安山岩」→「変・安」 「溶結凝灰岩」→「溶・凝」  
「赤鉄鉱」→「赤」

## 2. 出土遺物の分類

(1) 出土土器の分類

第I群土器 縄文時代早期の土器

第II群土器 縄文時代前期の土器

1 縄文時代前期前半の土器

2 縄文時代前期後半の土器

第III群土器 縄文時代中期の土器

(2) 出土石器の分類

・石鎌・石槍・石匙・石箇

・不定形石器・その他の剥片石器

・剥片・石核・磨製石斧・石錐

・敲磨器類・半円状扁平打製石器

・石皿

(3) 出土石器の掲載にあたり、点数が多数であるもの、欠損が激しいもの等は、一部を計測表の記載に留めた。

# 目 次

序  
例言  
凡例  
本文目次  
図版目次  
表目次  
写真目次

## 第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査方法	2
第4節 調査経過	5

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡	5
第2節 基本層序	8

## 第Ⅲ章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構	9
1. 積穴式住居跡	9
2. 土坑	15
3. 小ピット	18
第2節 出土遺物	30
1. 土器	30
2. 石器	39

まとめ	58
-----	----

引用・参考文献	60
---------	----

写真図版	61
------	----

報告書抄録	71
-------	----

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧	
----------------	--

## 図版目次

第1図 調査範囲図	3
第2図 遺構及びグリッド配置図	4
第3図 遺跡位置及び周辺の遺跡図	7
第4図 基本層序	8
第5図 壺穴式住居跡(1)	12
第6図 壺穴式住居跡(2)	13
第7図 壺穴式住居跡(3)	14
第8図 土坑(1)	22
第9図 土坑(2)・小ピット	23
第10図 遺構内出土土器(壺穴式住居跡)(1)	24
第11図 遺構内出土土器(壺穴式住居跡)(2)	25
第12図 遺構内出土土器(土坑・小ピット)(1)	26
第13図 遺構内出土土器(土坑・小ピット)(2)	27
第14図 遺構内出土石器(1)	28
第15図 遺構内出土石器(2)	29
第16図 遺構外出土土器(1)	33
第17図 遺構外出土土器(2)	34
第18図 遺構外出土土器(3)	35
第19図 遺構外出土土器(4)	36
第20図 遺構外出土土器(5)	37
第21図 遺構外出土土器(6)	38
第22図 遺構外出土石器(1)	41
第23図 遺構外出土石器(2)	42
第24図 遺構外出土石器(3)	43
第25図 遺構外出土石器(4)	44
第26図 遺構外出土石器(5)	45
第27図 遺構外出土石器(6)	46
第28図 遺構外出土石器(7)	47
第29図 遺構外出土石器(8)	48
第30図 遺構外出土石器(9)	49
第31図 遺構外出土石器(10)	50
第32図 遺構外出土石器(11)	51
第33図 遺構外出土石器(12)	52

## 表目次

第1表 遺構内出土土器観察表	53
第2表 遺構内出土石器計測表	53
第3表 遺構外出土土器観察表	54
第4表 遺構外出土石器計測表	55

## 写真目次

写真1 調査前風景・基本層序・壺穴式住居跡(1)	61
写真2 壺穴式住居跡(2)・土坑(1)	62
写真3 土坑(2)・調査風景	63
写真4 遺構内出土土器(1)	64
写真5 遺構内出土土器(2)・石器(1)	65
写真6 遺構外出土土器(1)	66
写真7 遺構外出土土器(2)	67
写真8 遺構外出土土器(3)	68
写真9 遺構外出土土器(4)・石器(1)	69
写真10 遺構外出土土器(2)	70

## 第Ⅰ章 調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

平成12年度、土地所有者である手塚宇一郎氏の依頼を受けた木商建設より青森市教育委員会文化財課へ、分譲宅地開発予定地である青森市安田字近野276-1の地点について埋蔵文化財包蔵地有無確認の照会がなされた。当委員会では、近野遺跡に該当し、事前の協議が必要との回答を行った。協議の結果、遺跡の現状保存が困難であり、事前の本発掘調査が必要と判断された。工事予定地は、遺跡範囲の縁辺部に相当し、内容確認のため、当委員会が試掘調査を実施することとなった。

当委員会では、工事予定地8,364m<sup>2</sup>を対象に平成12年10月16日～10月20日にわたり試掘調査を実施し、繩文時代前期、中期の遺物及び遺構を確認し、工事予定地内について発掘必要対象区を設定した。(青森市教育委員会 2001)

本発掘調査は、次年度に実施予定であったが、他事業との調整の結果、平成14年度に、実施することとなった。平成14年5月3日付で委託契約を締結し、平成14年7月26日から9月18日までの期間、発掘調査を実施した。

### 第2節 調査要項

#### 1. 調査目的

分譲宅地開発事業に係る造成工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

#### 2. 遺跡名及び所在地

近野遺跡(ちかの)

青森市大字安田字近野276-1

#### 3. 事業実施期間 平成14年5月3日～平成15年3月31日

(発掘調査期間 平成14年7月26日～平成14年9月18日)

#### 4. 調査面積 1,614m<sup>2</sup>

#### 5. 調査委託者 手塚 宇一郎

#### 6. 調査受託者 青森市教育委員会

#### 7. 調査担当機関 青森市教育委員会文化財課

#### 8. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

## 9. 予算措置 調査委託者側で措置

## 10. 調査体制

調査事務局

青森市教育委員会

教 育 長	角 田 詮二郎
教 育 部 長	大 柴 正 文
教 育 次 長	竹 内 徹
参 事・文 化 財 課 長事務取扱	遠 藤 正 夫
課 長補佐	工 藤 勝 則
主 査	木 浪 貴 子
文 化 財 主 事	小 野 貴 之 (調査担当)
"	木 村 淳 一
"	児 玉 大 成
"	設 楽 政 健
主 事	足 澤 愛 子 (庶務担当)

## 第3節 調査方法

グリッドの設定は、青森県総合運動公園内で青森県が実施していた近野遺跡発掘調査におけるグリッド設定を譲り受け、それを拡張して調査区内に4m×4mのメッシュを組んだ。グリッド杭の表示は、I T - 215を起点とし、北へ214、213...、南へ216、217...、の順に算用数字を付し、また、東へJ A、J B...、西へI S、I R...、の順にA～Tまでを組み合わせ、アルファベットを付した。

各グリッドの呼称は、アルファベットと算用数字を組み合わせて示した。(凡例参照)。北東隅のグリッド杭の表示によるものとした。

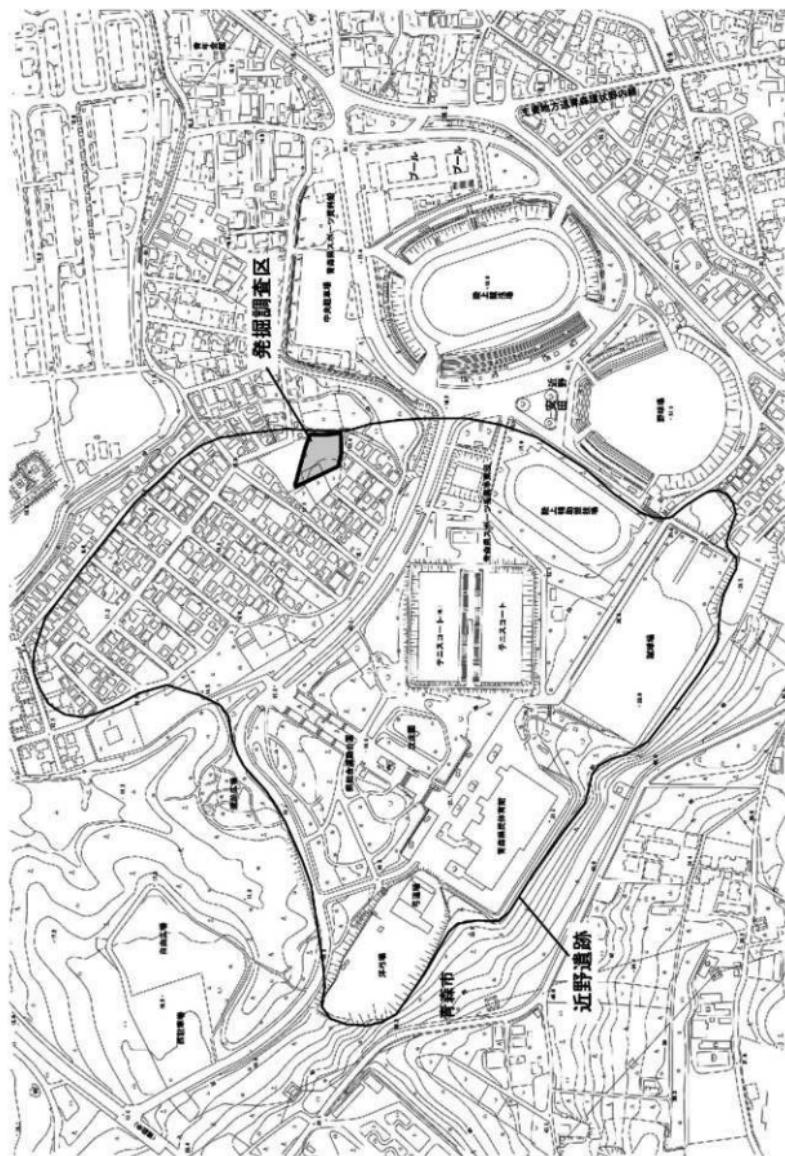
調査区域での測量原点(B.M.)は、市内浪館地区の青森市地盤沈下観測用水準点No64(標高5.898m)より原点移動を行い、標高11.996mの原点(B.M.1)を設置した。これを基準として調査区全域に対処するため適宜数個所に設置した。

各遺構は、種類別、確認順に1番から遺構番号を付した。

遺構精査にあたっては、原則として4分法、2分法を用いることとし、その他必要に応じ土層観察用のベルトを設定した。

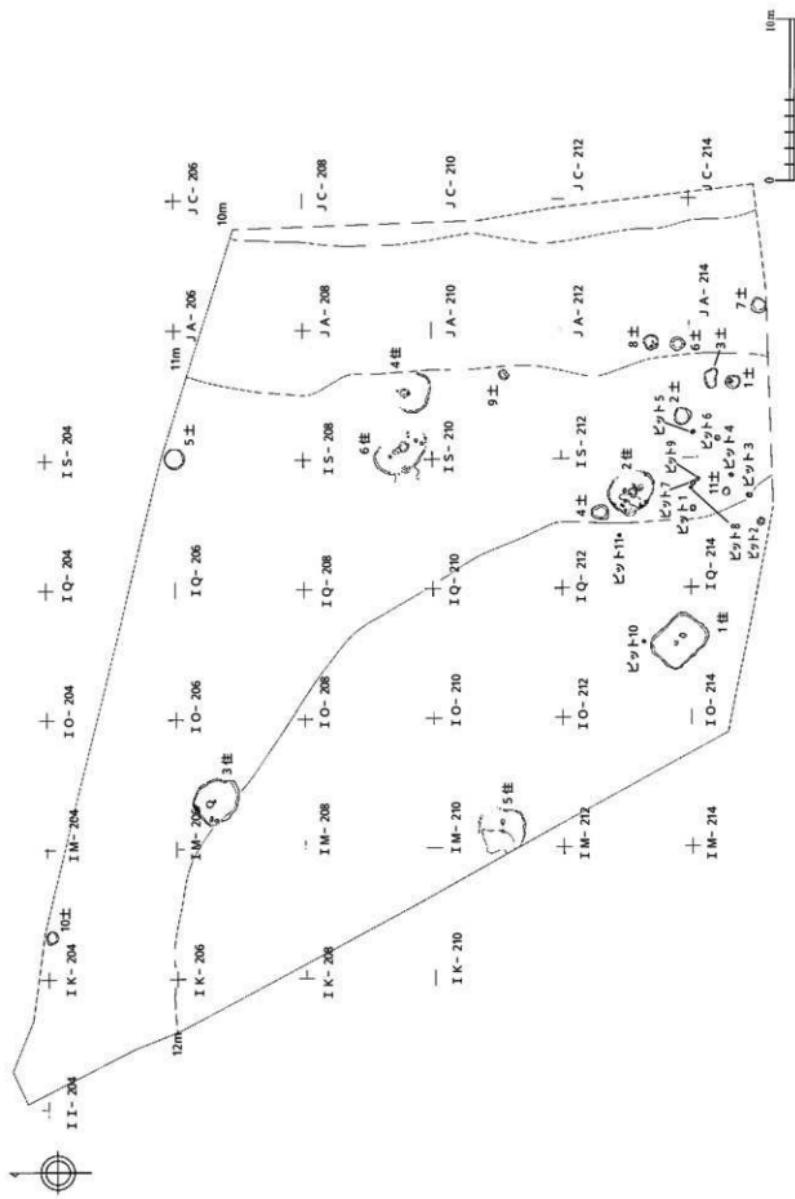
遺構の実測図作成においては、平面図、断面図を主体に作成した。また、遺構内出土遺物については、必要に応じ、微細図、分布図を作成した。実測にあたっては、基本的に簡易通り方測量を行い、縮尺については、原則として20分の1としその他必要に応じ10分の1とした。写真撮影については、土層断面、完掘状況を主体に撮影し、必要に応じ、遺物出土状況を撮影した。フィルムは、モノクロームとカラーリバーサルを併用した。

出土遺物の記録は、遺構内外の遺物とともに、必要に応じ出土状況図、分布図を作成し、出土位置を記録した。図面の縮尺については、基本的に20分の1もしくは10分の1とした。その他、必要に応じ写真撮影を行った。



第1図 調査範囲図

\*青森市教育委員会作成「青森市地図」(数値地図)を一部縮写の上、加工・転載した。



第2図 遺構及びグリッド配置図

出土遺物の取り上げに関して、遺構内出土遺物は、基本的に覆土の各層位毎に一括して取り上げた。遺構外出土遺物は、原則的にグリッド単位で層位毎に一括して取り上げた。石器については原則的に、加工痕、使用痕の認められるものを現地調査時に選択した。

#### 第4節 調査経過

- 7月26日 調査区域内の草刈を行い、調査の開始とした。
- 7月31日 浪館地区的水準点より原点移動を行い調査区内に測量原点を設置した。
- 8月1日 発掘作業員の雇用開始日であり、調査開始式を行い、また、調査区内外の環境整備を行った。
- 8月2日 調査区南側より表土剥ぎを始めた。
- 8月5日 表土剥ぎを終えた地点から遺構確認を行った。
- 8月12日～15日までは、お盆休みとし、現地調査を中断した。
- 8月16日 現地調査を再開した。盆休み前に確認していた遺構について精査を開始した。
- 8月23日 第1号竪穴式住居跡より、住居跡の精査を開始した。
- 8月27日 第3号竪穴式住居跡において、土器片圓炉を確認した。
- 9月2日 調査区東側の調査が終了した。以降調査区東側に排土移動を行い、これまで、排土を仮置きしていた、調査区中央部の表土剥ぎ、遺構確認作業を行い、隨時遺構精査を進めた。
- 9月18日 調査終了日であり、調査終了式を行い、現地調査を終了した。

## 第II章 遺跡の環境

#### 第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡

本遺跡が所在する青森市は、北の陸奥湾に面する青森平野とこれを取り囲む、東部の山地、南部に広がる火山性台地、西部の丘陵地からなる。本遺跡は、青森市西部の丘陵地の北東縁辺、開析の進んだ浪館段丘上に位置する。

調査対象区は、本遺跡の東端にあたり、地形的には、南西から北東に緩やかに下る斜面となっている。標高は、9～13mである。浪館段丘の低位段丘に相当すると思われる。調査前には、休耕畠地となっていた。調査区外東側は、旧溝田及び廃材等による盛土であるが、当委員会が平成12年度に実施した試掘調査において、現在の地表面から最深5m以上に至る深い沢ないし谷状の地形となっていることが判明した。沖館川に流れ込む支流と思われる。調査区も西側から東側は比較的緩やかな傾斜であるが、東側は、沢に向かい幾分傾斜が強まっている。

本遺跡は、青森市安田字近野及び三内字丸山に所在する。これまで総合運動公園建設等に係り度々の発掘調査が実施されている。これまでの調査で縄文時代中期、後期、平安時代を主体とする遺構、遺物が検出されている。当委員会調査区の南側では、縄文時代後期の遺物包含層の他、平安時代の集落跡が確認されている。

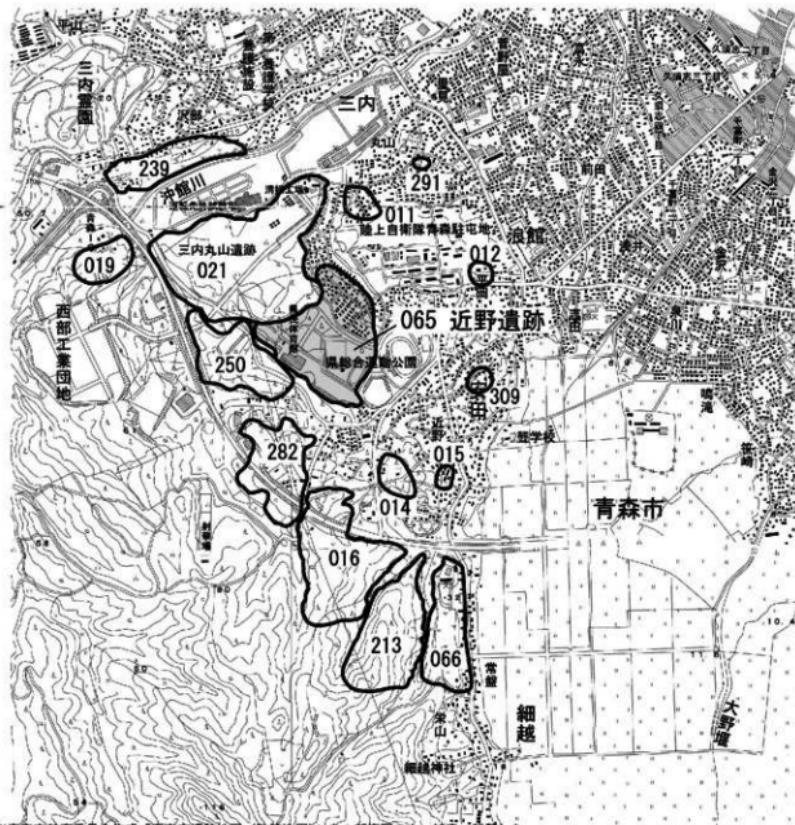
また、本遺跡の周囲にも多数の遺跡が所在しているが、比較的近辺の15個所の遺跡を図示した(第3図)。近年、遺跡の統合に伴い名称等が変更になった遺跡も多々見られる。

本遺跡にほぼ隣接して2個所の遺跡がある。北西側には国の特別史跡である三内丸山遺跡が所在する。旧小三内遺跡、旧三内丸山(1)、(2)遺跡及び近野遺跡の一部が統合されている。また、西側には、三内丸山(5)遺跡が所在する。旧三内丸山(3)遺跡と統合されている。調査において中期中葉、末葉の竪穴住居跡等の遺構や縄文時代前期から後期、平安時代の遺物が確認されている。また、三内丸山遺跡の西側、丘陵地上には、三内遺跡が所在している。

本遺跡の東側には、本発掘調査は実施されていないが、6個所の遺跡が所在する。北東側には、縄文時代前期の浪館(1)遺跡、縄文時代中期・晚期の浪館(2)遺跡、平安時代の三内丸山(3)遺跡が所在する。なお、三内丸山(3)遺跡は、名称が旧三内丸山(7)遺跡から変更くなっている。南東側には、縄文時代前期の安田近野(1)遺跡、安田近野(2)遺跡、安田(1)遺跡が所在する。安田近野(1)遺跡では、土師器片が採取されたとの報告も見られる。また、平成9年度に旧安田水天宮(1)遺跡から名称が変更されている。

本遺跡の北東、三内丸山遺跡を挟んだ沖館川北側には三内沢部(3)遺跡が所在している。縄文土器片及び土師器片が確認されている。三内沢部(3)遺跡の西側、現在のインターチェンジ付近には、三内沢部(1)遺跡が所在しており、縄文時代前期中葉円筒下層b式期の遺物包含層や中期中葉、末葉の集落跡が確認されている。

本遺跡南側の丘陵地上には、三内丸山(6)遺跡、安田(2)遺跡、栄山(3)遺跡、細越館遺跡が所在している。近年では、縦貫自動車道建設に係る発掘調査が行われている。三内丸山(6)遺跡では、縄文時代中期、後期の集落跡が検出されている。また、縄文時代早期から晚期、平安時代の遺物が出土している。安田(2)遺跡では、鉄生産に係る鍛冶炉を有する住居跡など平安時代の集落や縄文時代中期、後期の住居跡が検出されている。また、弥生時代の遺物が出土している。また、平成9年度に旧安田水天宮(2)遺跡と統合されている。栄山(3)遺跡では、縄文時代前期、後期、平安時代の竪穴住居跡や、落とし穴と考えられる土坑が検出されている。なお、三内丸山(6)遺跡は、安田(2)遺跡の一部及び旧三内丸山(4)遺跡と統合されている。



\*青森市教育委員会作成「青森市道路地図（数値地図）」を一部複写の上、加工・転載した。

第3図 遺跡位置及び周辺の遺跡図

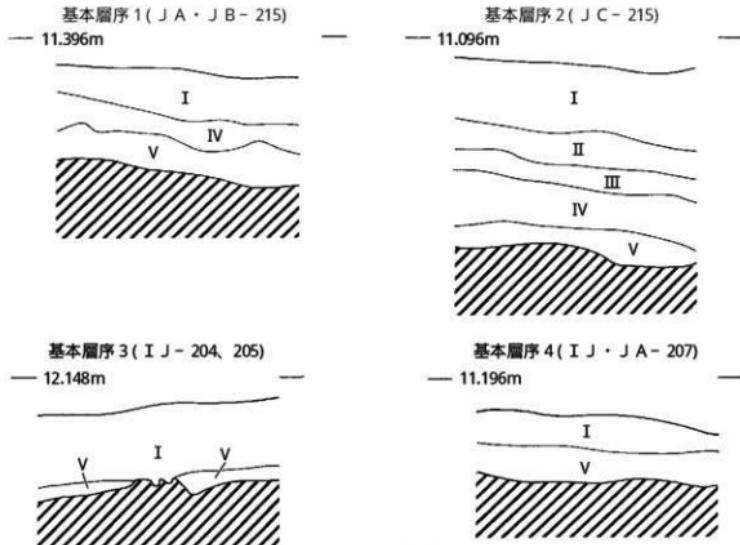
遺跡番号	遺 跡 名	所 在 地	時 代
011	浪館( 1 ) 遺跡	三内字丸山	縄文( 前 )
012	浪館( 2 ) 遺跡	浪館字平岡	縄文( 中・晚 )
014	安田近野( 1 ) 遺跡	安田字稻森	縄文( 後 )
015	安田( 1 ) 遺跡	安田字近野	縄文( 前 )
016	安田( 2 ) 遺跡	安田字近野、細越字榮山	縄文( 前・後 )
019	三内遺跡	三内字丸山	縄文、平安
021	三内丸山遺跡	安田字近野	縄文( 前・中・後 )、平安
065	近野遺跡	三内字丸山、安田字近野	縄文( 前・中・後・晚 )
066	細越前遺跡	細越字榮山	平安
213	宋山( 3 ) 遺跡	細越字榮山	縄文( 前・後 )、弥生、平安
239	三内沢部( 2 ) 遺跡	三内字沢部	縄文、平安
248	三内丸山( 3 ) 遺跡	三内字丸山	平安
250	三内丸山( 5 ) 遺跡	三内字丸山	縄文( 前・晚 )
282	三内丸山( 6 ) 遺跡	三内字丸山	縄文( 中・後 )
309	安田近野( 2 ) 遺跡	安田字近野	縄文( 前 )

## 第2節 基本層序

調査区域の基本層序は、次のとおりである。

- 第Ⅰ層 黒褐色土(主に10Y R2 / 2) 表土、耕作土である。重機等によると思われる削平の痕跡が下位の層との間に明瞭である。
- 第Ⅱ層 黒色土(10Y R2 / 1) JC-215グリッドのみの確認である。
- 第Ⅲ層 暗褐色土(10Y R3 / 3) JC-215グリッドのみの確認である。
- 第Ⅳ層 黒褐色土(主に10Y R2 / 3) 縄文時代の遺物を包含する。
- 第Ⅴ層 減移層
- 第Ⅵ層 地山として一括した。上位には、月見野火山灰に相当すると思われる黄褐色浮石質火山灰が堆積する。下位には、大谷火山灰と思われる赤褐色粘土質火山灰が堆積する。

調査区は、畑地であったためか、グリッドラインIT以西の大半は、およそ10~30cmの層厚で堆積する第Ⅰ層下において第Ⅴ層ないし第Ⅵ層まで削平を受けていた。地点によっては、最大8~10cmほど、第Ⅳ層が堆積する状況を確認したが、ごく部分的なものに留まる。また、ITライン以東については、調査区外の沢地形に至る斜面となっており地表面から第Ⅵ層上面まで最大約80cmに至るが、耕作の影響が第Ⅳ層中まで見られた。そのため、第Ⅱ層、第Ⅲ層は、土地境界付近のため耕作が深く至っていない、JC-215グリッドにおいてのみの確認である。



第4図 基本層序

## 第Ⅲ章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 検出遺構

#### 1. 壁穴式住居跡

##### 第1号壁穴式住居跡（第5図）

[位置・確認層] I P・I Q-213、214グリッドに位置する。第V層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、長軸330cm、短軸252cm、深さ26cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[床] 若干の起伏を有するが、ほぼ平坦である。

[柱穴] 2基のビットを確認した。配置より主柱穴の可能性が考えられる。床面からの深さは、ビット1が25cm、ビット2が14cmである。

[炉] なし。

[その他の附属施設] なし。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第II群土器（第10図5～21）、ビット2第1層より第II群土器（第10図4）が出土している。石器は、第1層より石匙が1点（第14図2）、不定形石器が5点（第14図1）、石核が1点、敲磨器類が1点（第15図7）出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

##### 第2号壁穴式住居跡（第5図）

[位置・確認層] I S-212、213グリッドに位置する。第V層、第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は梢円形で、長軸302cm、短軸226cm、深さ25cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。東側は、壁を確認していない。

[床] 若干の起伏を有するがほぼ平坦である。

[柱穴] 15基のビットを確認した。ビット1、2、5、6は、配置より主柱穴の可能性が考えられる。ビット10～13等壁際に位置する6基のビットは、壁柱穴と思われる。床面からの深さは、ビット1が3cm、ビット2が23cm、ビット3が25cm、ビット4が22cm、ビット5が9cm、ビット6が14cm、ビット7が8cm、ビット8が4cm、ビット9が3cm、ビット10が10cm、ビット11が10cm、ビット12が5cm、ビット13が6cm、ビット14が7cm、ビット15が3cmである。

[炉] 明確に炉と思われる施設は確認していないが、床面中央部に位置するビット1は、規模、配置より炉の可能性が考えられる。

[その他の附属施設] なし。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第II群土器（第11図23～25、30）、第III群土器（第11図26～29）、ビット

3 第Ⅰ層より第Ⅱ群土器（第11図22）が出土している。石器は、覆土より敲磨器類が1点（第15図8）出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代中期未葉以降の可能性が考えられる。

#### 第3号竪穴式住居跡（第6図）

[位置・確認層] IN・IO-206グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、長軸295cm×短軸259cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[床] 起伏が見られるが全体として平坦である。

[柱穴] 4基のピットを確認した。ピット1は配置より主柱穴の可能性が考えられる。ピット2～4は、壁柱穴と思われる。床面よりの深さは、ピット1が8cm、ピット2が22cm、ピット3が5cm、ピット4が6cmである。

[炉] 床面中央部から北西より土器片圓炉を確認した。

[その他の附属施設] なし。

[堆積土] 3層に分層した。第1、3層は黒色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。なお、第1層と第2層の間には、焼土ブロックが住居跡東側で広範囲に広がっており廃棄されたものと考えられる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第Ⅱ群土器（第11図36）、覆土より第Ⅱ群土器（第11図38、42）、第Ⅲ群土器（第11図37、39～41、43～46）、炉覆土より第Ⅲ群土器（第11図31～35）が出土している。

[時期] 土器片圓炉に用いられた土器から、縄文時代中期未葉の竪穴式住居跡である。

#### 第4号竪穴式住居跡（第6図）

[位置・確認層] IT・JA-209グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、最長257cm、深さ18cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[床] 若干の起伏が見られる。また、西側から東側へ傾斜が見られる。

[柱穴] 3基のピットを確認した。ピット2、3は、配置より主柱穴の可能性が考えられる。床面からの深さは、ピット1が8cm、ピット2が14cm、ピット3が10cmである。

[炉] 明確に炉と思われる施設は確認していないが、ピット1は、規模、配置より炉の可能性が考えられる。

[その他の附属施設] なし。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、暗褐色土と褐色土の混合土が堆積する。壁面の崩落土の可能性が考えられる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第Ⅱ群土器（第11図47）が出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

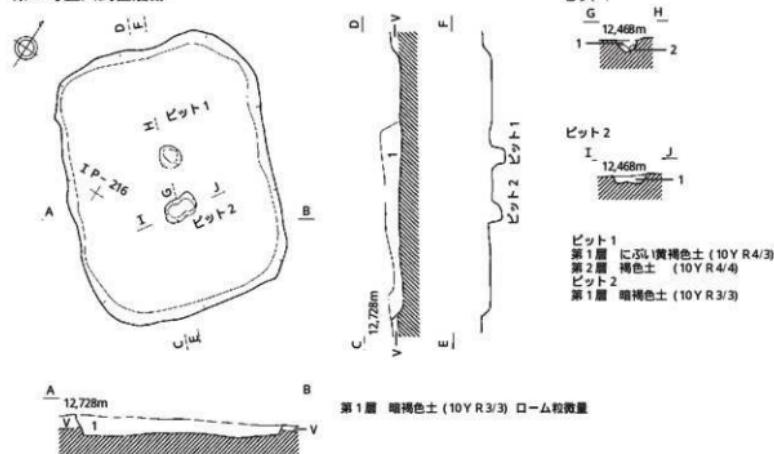
## 第5号竪穴式住居跡（第7図）

- [位置・確認層] I N- 210、211グリッドに位置する。第VI層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形と思われ、残存最大幅は302cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [床] 若干の起伏が見られるが、ほぼ平坦である。
- [柱穴] 2基のピットを確認した。ピット1は配置より主柱穴の可能性が考えられる。床面からの深さは、ピット1が21cm、ピット2が9cmである。
- [炉] なし。
- [その他の付属施設] なし。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第II群土器（第11図48～63）が出土している。石器は、覆土より不定形石器が1点（第14図3）出土している。
- [時期] 出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

## 第6号竪穴式住居跡（第7図）

- [位置・確認層] I S・IT- 209グリッドに位置する。第VI層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は橢円形と思われ、残存部最大幅は352cm、深さ12cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [床] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。
- [柱穴] 8基のピットを確認した。ピット3、4は配置より主柱穴の可能性が考えられる。ピット5～8は壁柱穴と思われる。床面からの深さは、ピット1が7cm、ピット2が9cm、ピット3が19cm、ピット4が13cm、ピット5が16cm、ピット6が7cm、ピット7が11cm、ピット8が10cmである。
- [炉] 明確に炉と思われる施設は確認していないが、ピット1、2は規模、配置より炉の可能性が考えられる。
- [その他の付属施設] なし。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第II群土器（第11図64～67）が出土している。石器は、第1層より不定形石器が2点（第14図4）出土している。
- [時期] 出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

## 第1号竪穴式住居跡

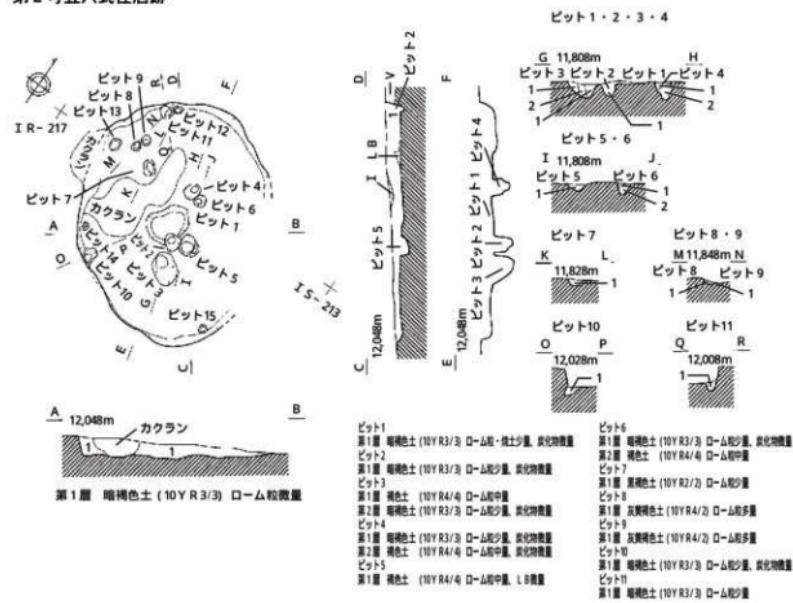


第1層 墨褐色土 (10Y R 3/3) ローム粒微量

ビット1	G 12,468m	H
ビット2	I 12,468m	J
ビット1	K 12,272m	L
ビット2	M 12,088m	N
ビット1	O 12,028m	P

第1層 にぶい黄褐色土 (10Y R 4/3)  
第2層 棕褐色土 (10Y R 4/4)  
ビット2  
第1層 墨褐色土 (10Y R 3/3)

## 第2号竪穴式住居跡

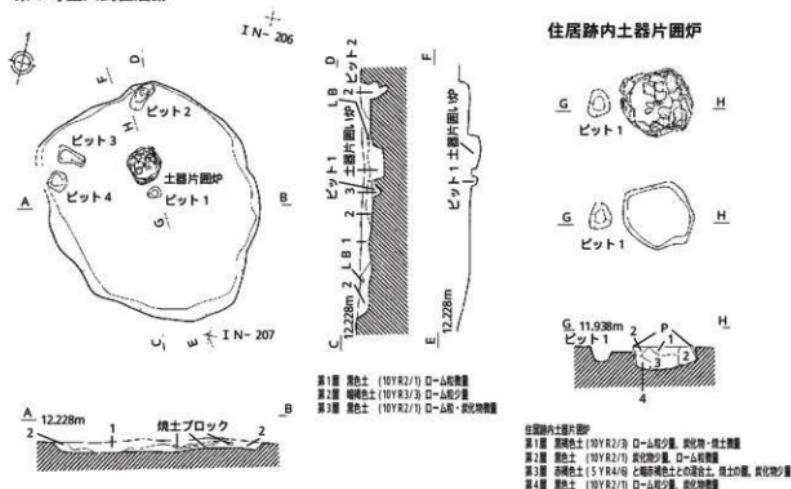


第1層 墨褐色土 (10Y R 3/3) ローム粒微量

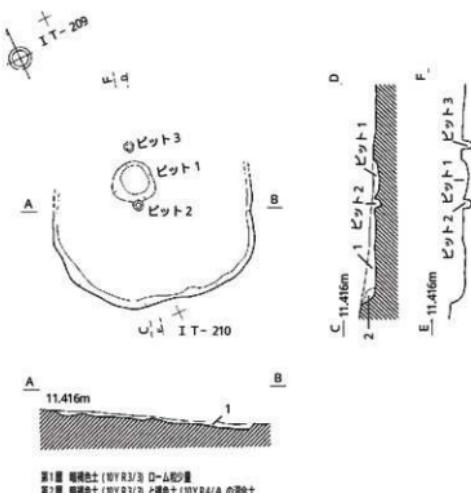
ビット1	第1層 墨褐色土 (10Y R 3/3) ローム粒・泥土少量、炭化物微量
ビット2	第2層 棕褐色土 (10Y R 4/4) ローム少量、炭化物微量
ビット3	第1層 墨褐色土 (10Y R 3/3) ローム少量、炭化物微量
ビット4	第2層 棕褐色土 (10Y R 4/4) ローム少量、炭化物微量
ビット5	第1層 墨褐色土 (10Y R 3/3) ローム少量、炭化物微量
ビット6	第2層 棕褐色土 (10Y R 4/4) ローム少量、炭化物微量
ビット7	第1層 墓褐色土 (10Y R 2/2) ローム少量
ビット8	第1層 反覆褐色土 (10Y R 4/2) ローム少量
ビット9	第1層 反覆褐色土 (10Y R 4/2) ローム少量
ビット10	第1層 墓褐色土 (10Y R 3/3) ローム少量、炭化物微量
ビット11	第1層 墓褐色土 (10Y R 3/3) ローム少量

第5図 竪穴式住居跡 (1)

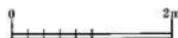
## 第3号竪穴式住居跡



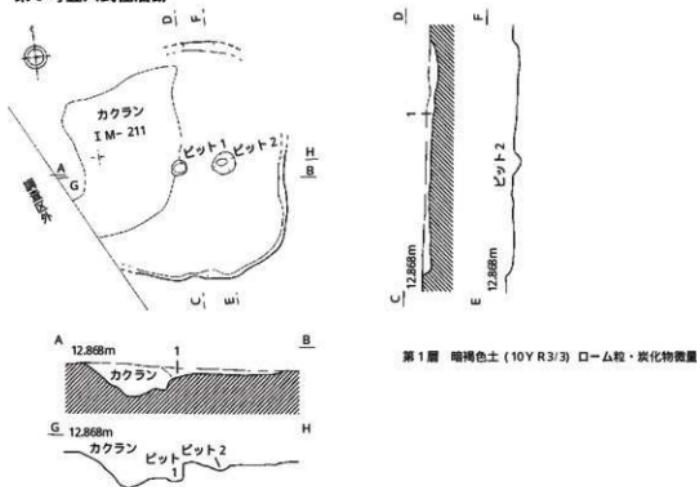
## 第4号竪穴式住居跡



第6図 竪穴式住居跡（2）

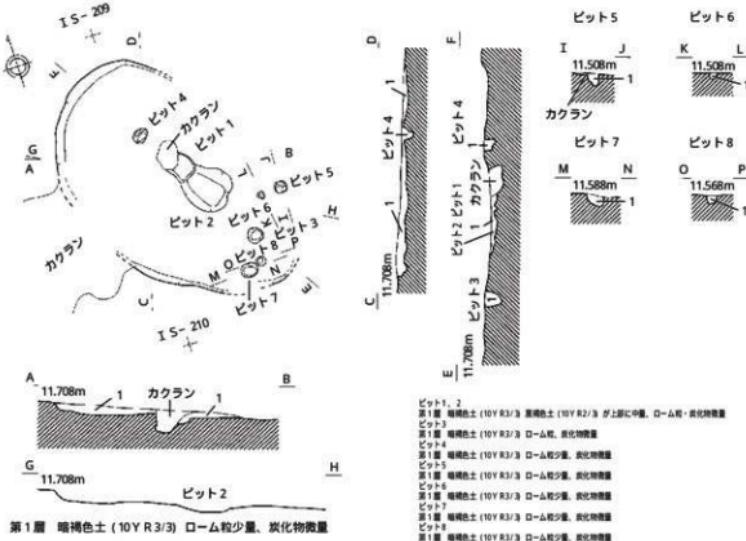


## 第5号竪穴式住居跡



第1層 暗褐色土 (10Y R3/3) ローム粒・炭化物微量

## 第6号竪穴式住居跡



第1層 暗褐色土 (10Y R3/3) ローム粒少量・炭化物微量

第7図 竪穴式住居跡 (3)

## 2. 土 坑

### 第1号土坑（第8図）

- [位置・確認層] J A- 214グリッドに位置する。第VI層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は橢円形で、開口部は90cm× 80cm、底面は72cm× 64cm、深さは25cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 丸みを帯びる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黄褐色土と褐色土の混合土である。壁面直上からの崩落土の可能性が考えられる。
- [出土遺物] 第1層より破損した石皿が1点（第15図9）出土している。
- [時期] 不明である。

### 第2号土坑（第8図）

- [位置・確認層] I T- 213、214グリッドに位置する。第VI層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径107cm、底面は長径98cm、深さは11cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 若干丸みを帯びる。また、西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黄色褐色土と褐色土の混合土である。掘りすぎた可能性もある。
- [出土遺物] 第1層より第II群土器（第12図68）が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

### 第3号土坑（第8図）

- [位置・確認層] J A- 214グリッドに位置する。第VI層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な橢円形で、開口部は125cm× 67cm、底面は116cm× 60cm、深さは16cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。また、全体として西側から東側への傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 第1層より第II群土器（第12図69～71）が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期前半以降の可能性が考えられる。

### 第4号土坑（第8図）

- [位置・確認層] I S- 212グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な橢円形で、開口部は102cm×88cm、底面は86cm×78cm、深さは22cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。壁面からの崩落土の可能性が考えられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

#### 第5号土坑（第8図）

[位置・確認層] I S・I T-205、206グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径125cm、底面は長径115cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。第1層中のロームブロックは、壁面直上からの崩落土の可能性が考えられる。第2層は、黄褐色土が堆積し、ロームを多量含む。

[出土遺物] 覆土より第II群土器（第12図72）が出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代前期末葉以降の可能性が考えられる。

#### 第6号土坑（第8図）

[位置・確認層] J A-213グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径86cm、底面は長径58cm、深さは25cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第3層は、黄褐色土が堆積し、ロームを少量含む。壁面からの崩落土の可能性が考えられる。

[出土遺物] 覆土より第II群土器（第12図73～77）、及び不定形石器が1点（第14図6）出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

#### 第7号土坑（第8図）

[位置・確認層] J B-215、216グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径96cm、底面は長径75cm、深さは19cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第3層は、黄褐色土が堆積する。壁面からの崩落土の可能性が考えられる。

[出土遺物] 第2層より第II群土器（第12図78）が出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

#### 第8号土坑（第8図）

[位置・確認層] JA-213グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は91cm、底面は長径83cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。また、西側から東側へ傾斜が見られる。底面南壁際及び西壁により底面ピットを有する。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第II群土器（第12図79～84）が出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代中期末葉以降の可能性が考えられる。

#### 第9号土坑（第8図）

[位置・確認層] JA-211グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は梢円形で、開口部は66cm×51cm、底面は44cm×23cm、深さは15cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 丸みを帯びる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第II群土器（第12図85、86）が出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代前期後半以降の可能性が考えられる。

#### 第10号土坑（第9図）

[位置・確認層] IL-203、204グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径78cm、底面は長径64cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干丸みを帯びる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第11号土坑（第9図）

- [位置・確認層] IS-214グリッドに位置する。第VI層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径46cm、底面は長径37cm、深さは14cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 4層に分層した。第1、4層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第2、3層は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 覆土より第III群土器（第13図87～94）、及び破損した石皿が1点（第15図10）出土している。
- [時期] 出土土器より縄文時代中期末葉と思われる。

3. 小ピット

第1号小ピット（第9図）

- [位置・確認層] IS-214グリッドに位置する。第VI層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な梢円形で、開口部は32cm×28cm、底面は24cm×19cm、深さは19cmである。
- [壁] やや外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 丸みを帯びる。
- [堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第2、3層は、黒色～褐色土が堆積する。崩落土の可能性が考えられる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第2号小ピット（第9図）

- [位置・確認層] IR・IS-215グリッドに位置する。第VI層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径47cm、底面は長径28cm、深さは23cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 丸みを帯びる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第3号小ピット（第9図）

- [位置・確認層] IS-214グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は橢円形で、開口部は33cm×27cm、底面は長径18cm、深さは21cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 丸みを帯びる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

#### 第4号小ピット（第9図）

[位置・確認層] I S-214グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径28cm、底面は長径14cm、深さは27cmである。

[壁] やや外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 丸みを帯びる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

第2層は、黄褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より石籠が1点（第14図5）、不定形石器が1点出土している。

[時期] 不明である。

#### 第5号小ピット（第9図）

[位置・確認層] I T-214グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径22cm、底面は長径12cm、深さは43cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

#### 第6号小ピット（第9図）

[位置・確認層] I T-215グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径34cm、底面は長径14cm、深さは26cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 丸みを帯びる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。崩落土の可能性が考えられる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第7号小ピット（第9図）

[位置・確認層] I S- 214グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な橢円形で、開口部は長径28cm、底面は長径22cm、深さは22cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 丸みを帯びる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第8号小ピット（第9図）

[位置・確認層] I S- 213、214グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は橢円形で、開口部は21cm×17cm、底面は長径13cm、深さは9cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 丸みを帯びる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第II群土器（第13図95）が出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代前期前半以降と思われる。

第9号小ピット（第9図）

[位置・確認層] I S- 214グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径25cm、底面は長径18cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より磨製石斧が1点（第15図11）出土している。

[時期] 不明である。

第10号小ピット（第9図）

[位置・確認層] I Q- 213グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径18cm、底面は長径9cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第11号小ピット（第9図）

[位置・確認層] I R-212グリッドに位置する。第VI層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な橢円形で、開口部は長径21cm、底面は長径17cm、深さは13cmである。

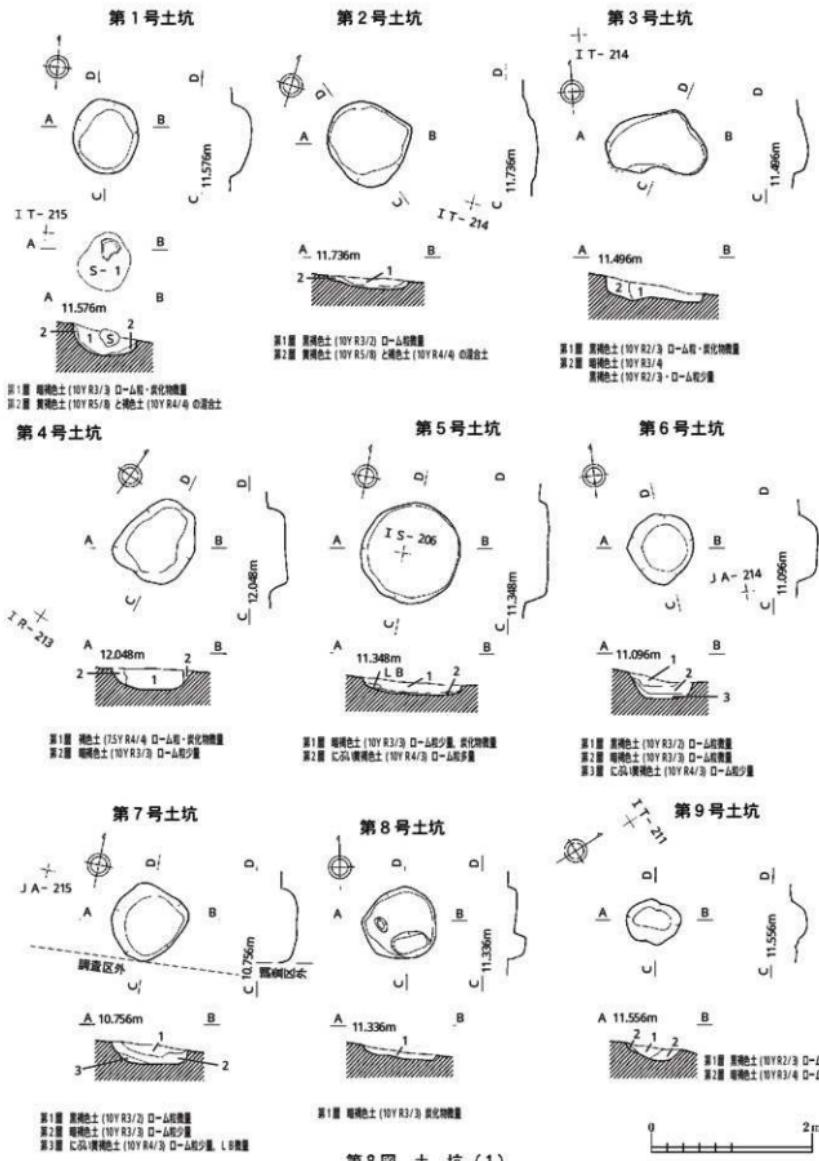
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

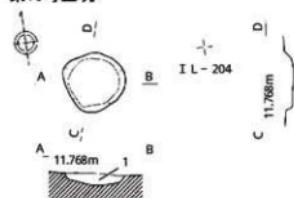
[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

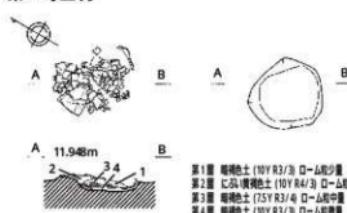


### 第8図 土坑(1)

第10号土坑

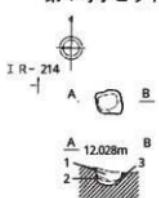


第11号土坑

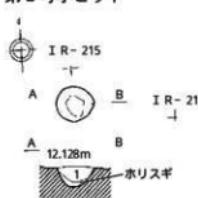


第1層 嗜褐色土 (10YR3/3) ローム少・鉄化物微量

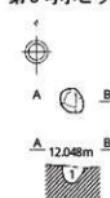
第1号小ビット



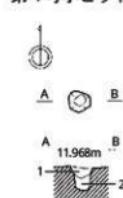
第2号小ビット



第3号小ビット



第4号小ビット

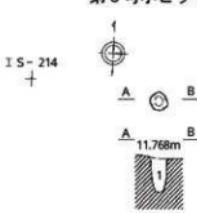
第1層 嗜褐色土 (10YR3/3) ローム鉄微量  
第2層 嗜褐色土 (10YR2/1)  
第3層 嗜褐色土 (10YR4/4) ローム少量

第1層 嗜褐色土 (10YR3/3)

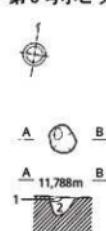
第1層 嗜褐色土 (10YR3/3) ローム鉄微量

第1層 嗜褐色土 (10YR3/3) ローム少・鉄化物微量  
第2層 C凹痕褐色土 (10YR4/3) ローム中量

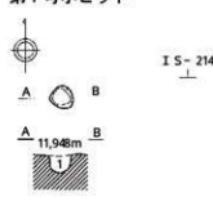
第5号小ビット



第6号小ビット

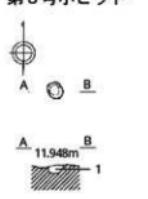


第7号小ビット

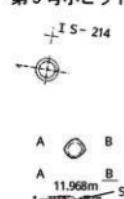


第1層 嗜褐色土 (10YR3/3) ローム少・鉄化物微量

第8号小ビット



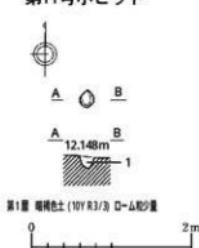
第9号小ビット



第10号小ビット



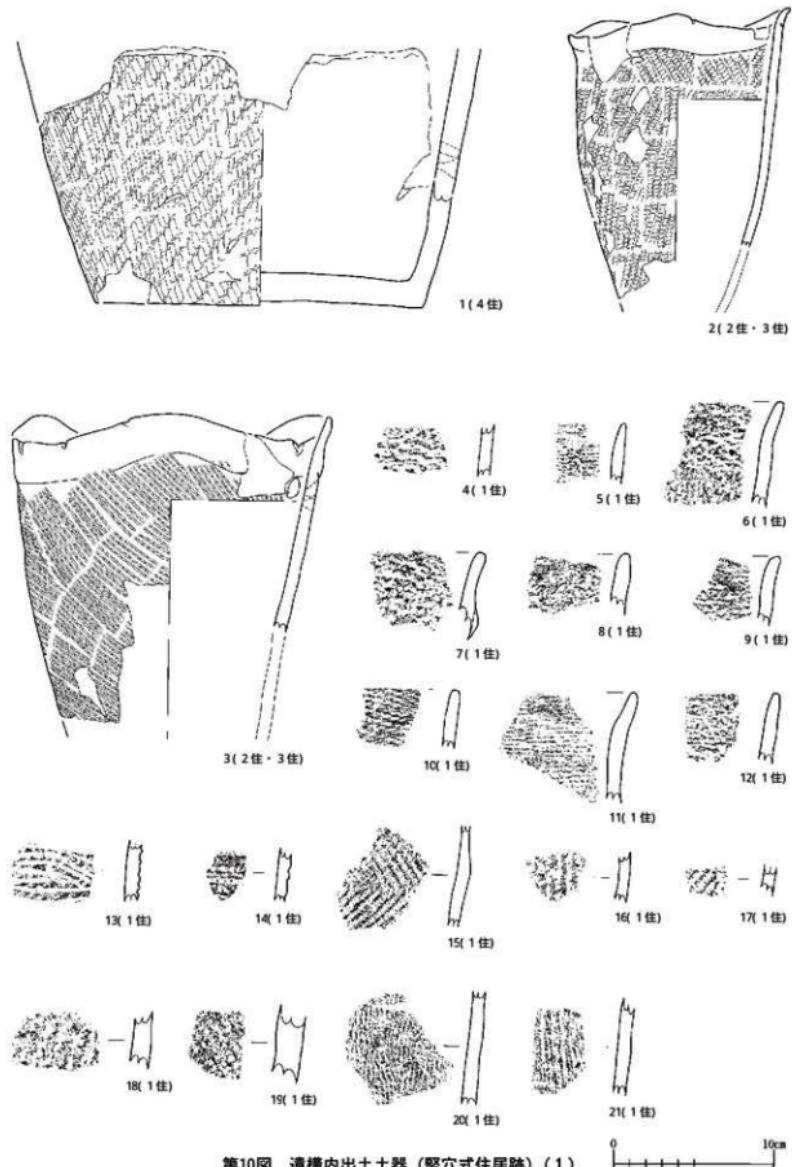
第11号小ビット



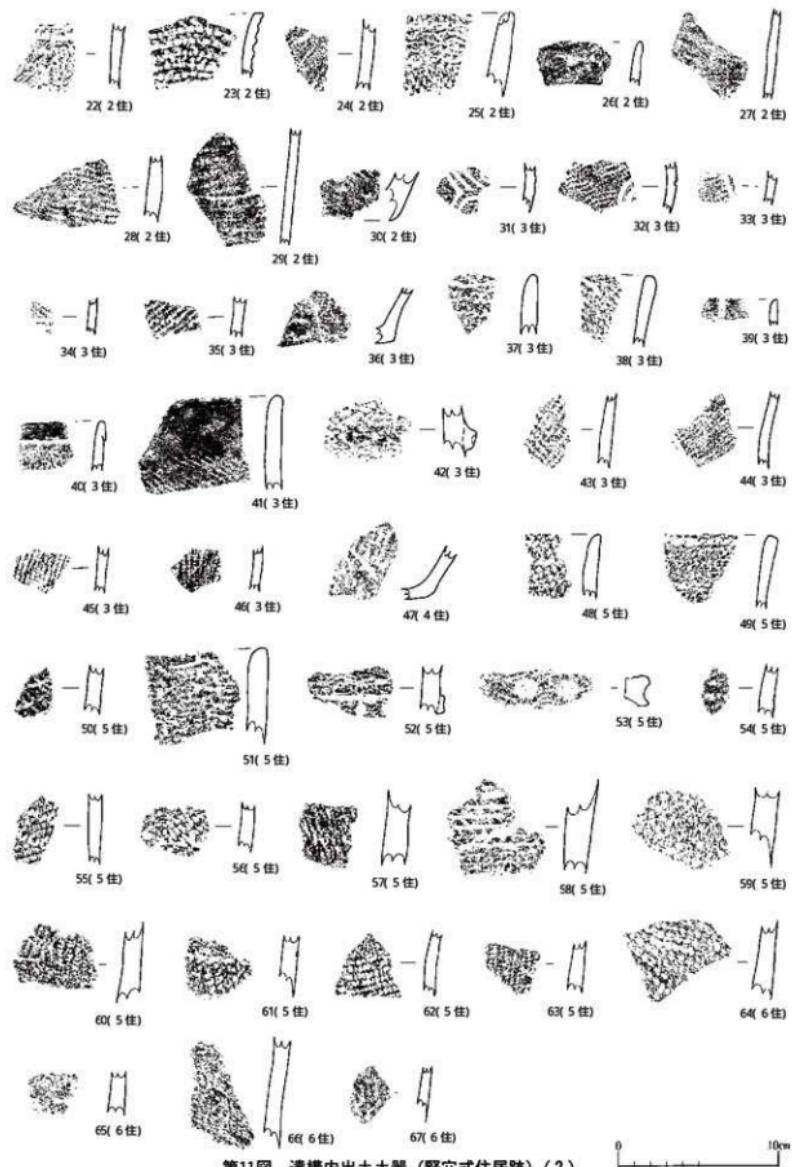
第1層 嗜褐色土 (10YR3/3) ローム少量

第1層 嗜褐色土 (10YR3/3) ローム中量

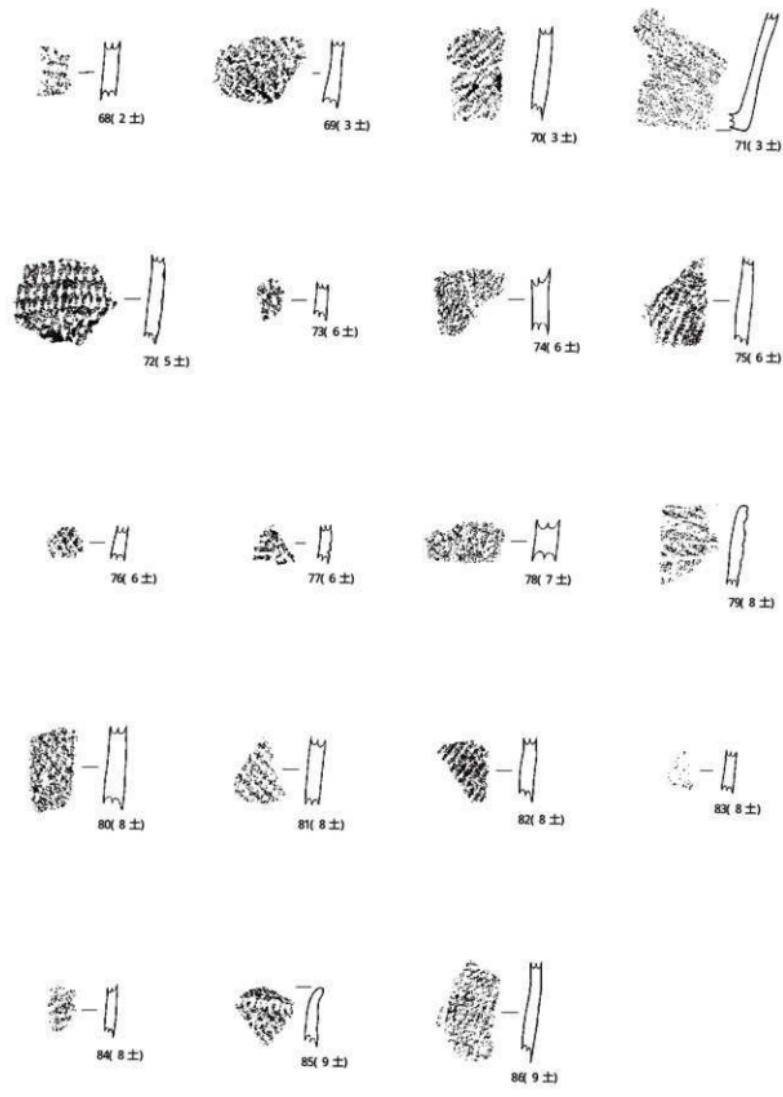
第9図 土坑(2)・小ビット



第10図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(1)

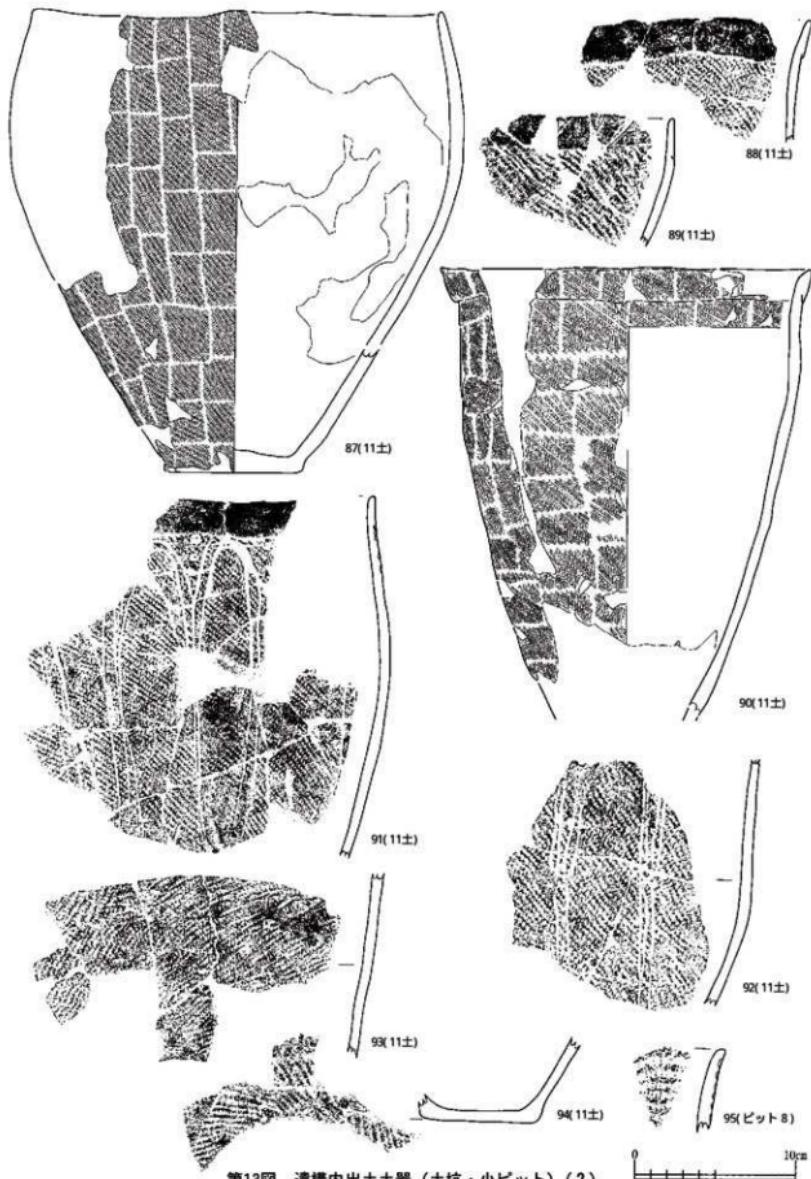


第11図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（2）

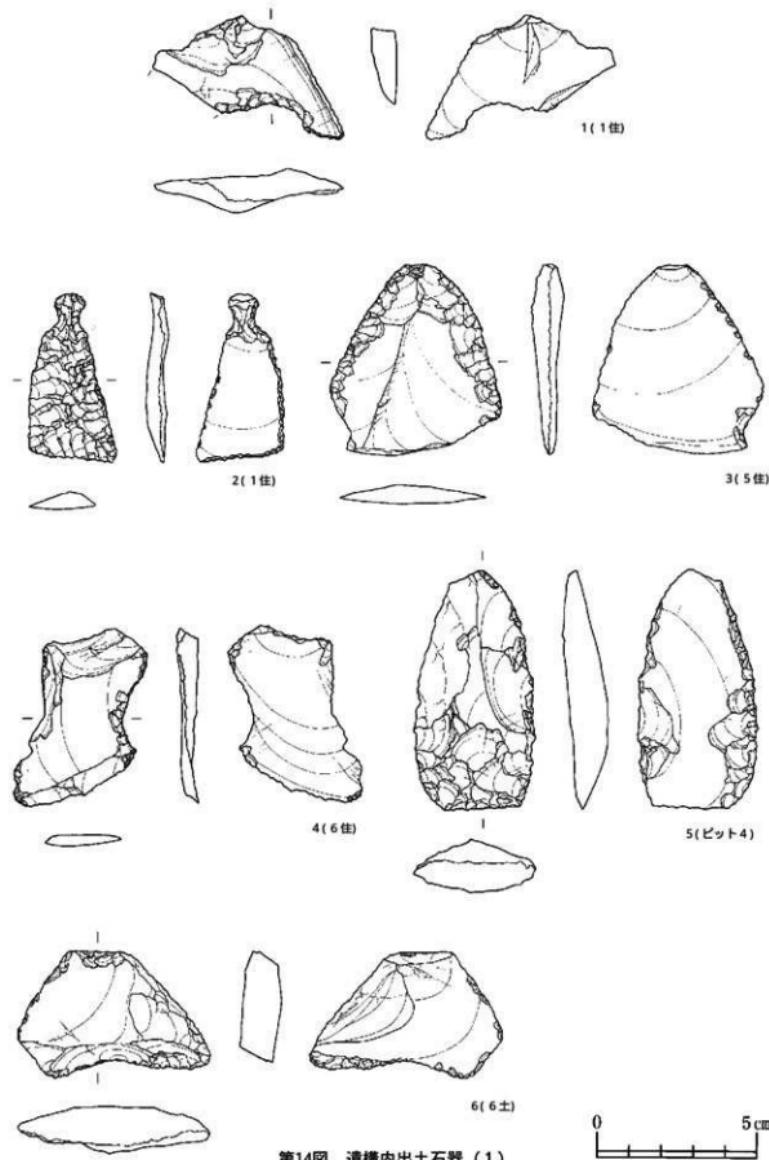


第12図 遺構内出土土器（土坑・小ピット）(1)

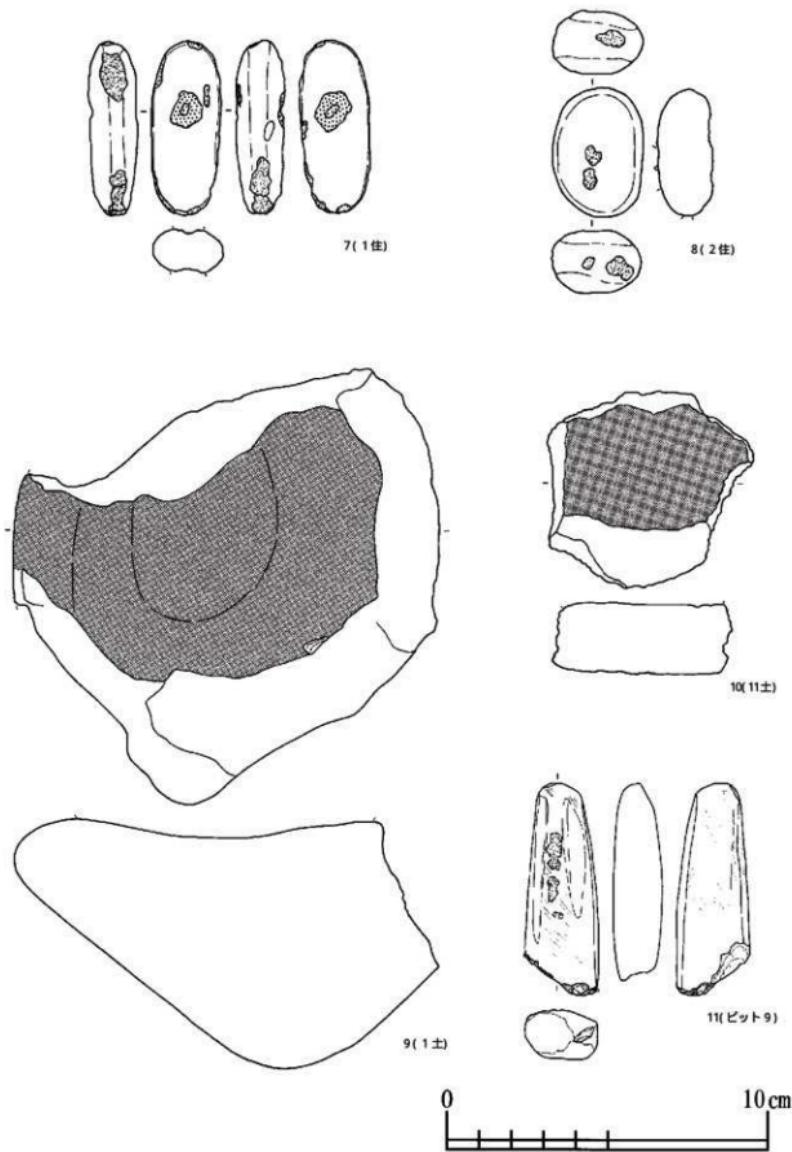




第13図 遺構内出土土器（土坑・小ピット）(2)



第14図 遺構内出土石器（1）



第15図 遺構内出土石器（2）

## 第2節 出土遺物

### 1. 土器

本遺跡で遺構内外より出土した土器は下記のように分類した。

第I群土器 繩文時代早期の土器

第II群土器 繩文時代前期の土器

1 繩文時代前期前半の土器

2 繩文時代前期後半の土器

第III群土器 繩文時代中期の土器

土器は、遺構内外出土を合わせ、段ボール箱換算で13箱が出土している。うち、第II群2類土器が最も多数であり、第II群1類土器及び第III群土器がそれに次ぐ出土である。

#### 第I群土器(第16図2)

1点のみの出土である。胴部片と思われる。貝殻腹縁刺突文をほぼ横位平行に連続し施している。早期中葉の土器と思われる。

#### 第II群土器

1 繩文時代前期前半の土器(第10図13、14、16、第11図22、23、55、第12図68~70、72、77、85、第13図95、第16図3~10、12~19、第17図20~43、第18図44~61)

おおむね前期前半の早稻田6類土器と思われるものである。

第16図3~10、12~16は、口縁部片である。半裁竹管状工具の押引による沈線を数条平行に施している。12、13は、口縁部が波状を呈するが、口縁に沿った沈線文下に充填するようにほぼ横位の沈線文を施している。地文には、横位にL R繩文が施されている。第16図17は、口縁部最上に弧状に、またその下に斜位に沈線文が施されている。第16図18は口縁部に竹管状工具の端部を刺突している。

第16図19は、口縁部にL R繩文によるループ文が4条横位に施されている。

第17図20~41は、胴部片である。第17図20~29は、押引沈線文と単節繩文によるループ文や繩端回転文が施されている。第17図33~40は、単節繩文によるループ文や繩端回転文が横位に施されている。

第17図31、32は、半裁竹管状工具による刺突文が横位、横位及び斜位に施されている。

第17図42、43、第18図44~61は底部片である。いずれも尖底と思われる。第18図44、46、53、54、56、57、59は押引沈線文を横位に、第17図43、第18図47、55、60、61は縦位に、第18図45は斜位及び横位にそれぞれ施している。第18図48~52、54、57、58は、地文に単節繩文が第18図57のみ縦位に、他は横位に施される。

2 繩文時代前期後半の土器(第10図4~12、15、17~21、第11図24、25、30、36、38、42、47~54、56~67、第12図71、73~76、78、80~84、86、第16図1、第18図62~67、第19図68~86、第20図87~94)  
おおむね前期後半の円筒下層式土器と思われるものである。

第18図62~67は、口縁部片である。第18図62、64~67は、口縁部に結節回転文を横位に施して

いる。地文には、R L 繩文や R L R 繩文を横位、斜位に施している。第18図63は、地文に R L 繩文を横位に施し、また、R L 原体を横位、縦位に押圧し口縁部としている。円筒下層a式土器と思われる。

第19図68～84は、口縁部片である。第19図68は、口縁部に結節回転文を横位に施している。地文には単軸絡条体第1類の回転文が縦位に施される。第19図69～71は、口縁部に結節回転文を施し、区画文として隆帯文を横位に施している。第19図69、70には、太い隆帯が施されている。隆帯外面には、横位のR L R 原体押圧、指頭押圧が施される。地文には、R L R 繩文が横位ないし斜位に施される。第19図72～84は、口縁部に単軸絡条体の回転文が横位に施される。単軸絡条体は、第1類、第5類、第6類、第6 A類が見られる。地文には、縦走、斜走するR L 繩文やR L R 繩文が施されるもの、単軸絡条体回転文が縦位に施されるものがある。第19図72～75、77、79～82には、区画として隆帯が施される。第18図82の隆帯上下には、横位に沈線文が施される。おおむね前期中葉の円筒下層b式土器と思われる。

第19図85、86は、口縁部片である。口縁部にL、L R 原体を横位に押圧している。おおむね前期末葉の円筒下層d式土器と思われる。

第20図87、88は、口縁部片である。波状を呈する。口縁部に、繩、絡条体の押圧の他、橋状把手、ボタン状貼付が施される。おおむね前期末葉の円筒下層d式土器ないし中期初頭の土器と思われる。

第20図89～94は、円筒下層式土器と思われるものである。第20図89は波状を呈する口縁部片である。地文は、斜走するR L R 繩文が施される。第20図90は、横位の隆帯文下に横位の沈線文と結節回転文が施されている。第20図91は、胴部に斜位の単軸絡条体回転文が施されている。第20図92は、皿ないし浅鉢を呈すると思われる器形を有する。第20図93、94は、底面にR L R 繩文、絡条体回転文が施されている。

第III群土器(第10図1～3、第11図26～29、31～35、37、39～41、43～46、第13図87～94、第16図11、第20図95～102、第21図103～121)

第20図95は、口縁部片である。口唇部に横位隆帯が施され、L原体を縦位に押圧した刻目が見られる。口縁部には、L、R原体を3条組み合わせた横位及び鋸歯状の押圧が施される。円筒上層a式土器と思われる。

第20図96～102、第21図103～104は、波状を呈する口縁部片である。いずれも口唇部及び隆帯外面に、しないしR原体押圧による縦位の刻目が施される。口縁部には、隆帯の他、L、R原体による馬蹄状、弧状の連続した押圧や、数条を一組とした横位や隆帯に沿った押圧が施される。胴部施文が確認できるものは、横位にR L 繩文や、単節繩文による結束第一種、結束第二種を施している。

第21図105、107、108は、口縁部片である。第21図105は、隆帯を上部は波状にその下部は横位に施し、外面にはL原体押圧による刻目が見られる。口唇断面は、肥大せず丸みを帯びている。第21図107、108は、口縁部に纏端による連続した刺突文が見られる。おおむね円筒上層b式土器と思われる。

第21図106は口縁部片、第21図109は、胴部片である。いずれも胴部に単節繩文による横位の結束第一種を施している。また、第21図106の口唇部には外面にL原体押圧を施す横位の隆帯を施している。円筒上層式土器と思われる。

第11図31は、胴部片である。2、3条の平行沈線文により渦巻文を構成するものと思われる。櫛林式土器と思われる。

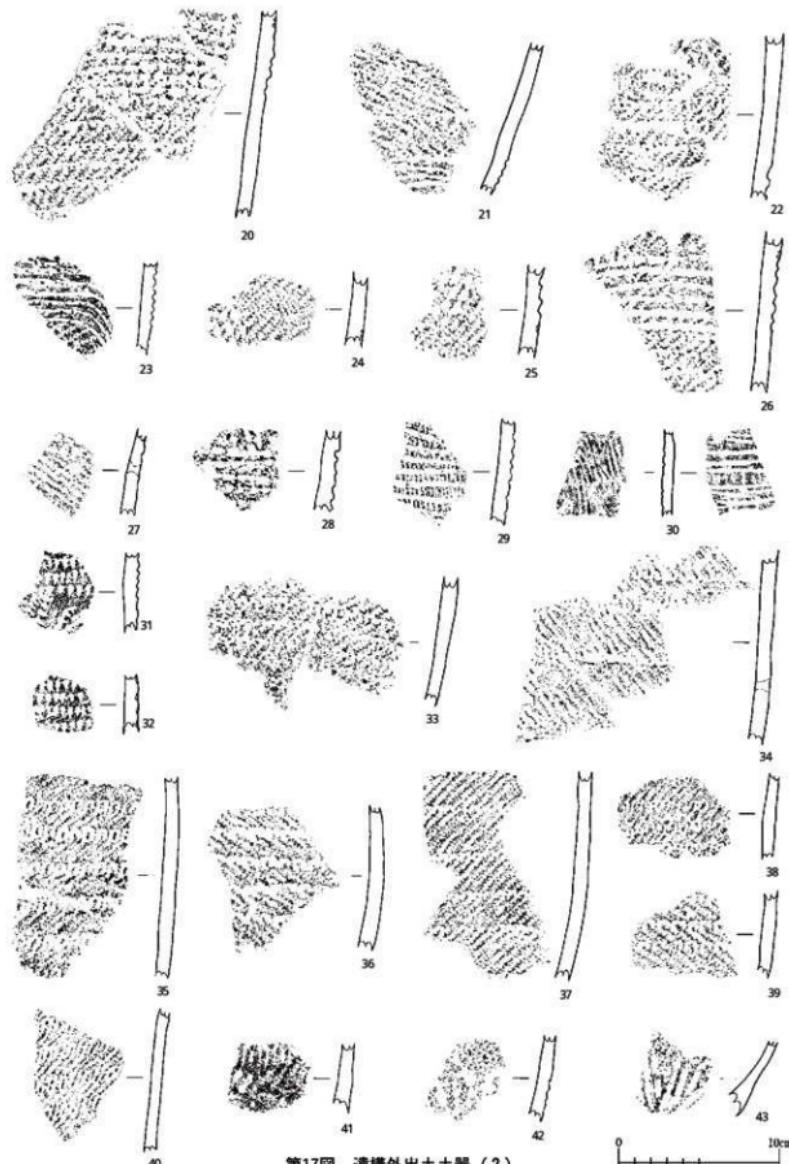
第13図91は、折返し口縁下に竹管状工具による円形刺突が施され、胴部には、2条の沈線による縦位

の長横円形文が連続して施されている。また、上部が内傾する器形を有する。第13図92、第21図114、15は、沈線により懸垂文が施されている。最花式土器と思われる。

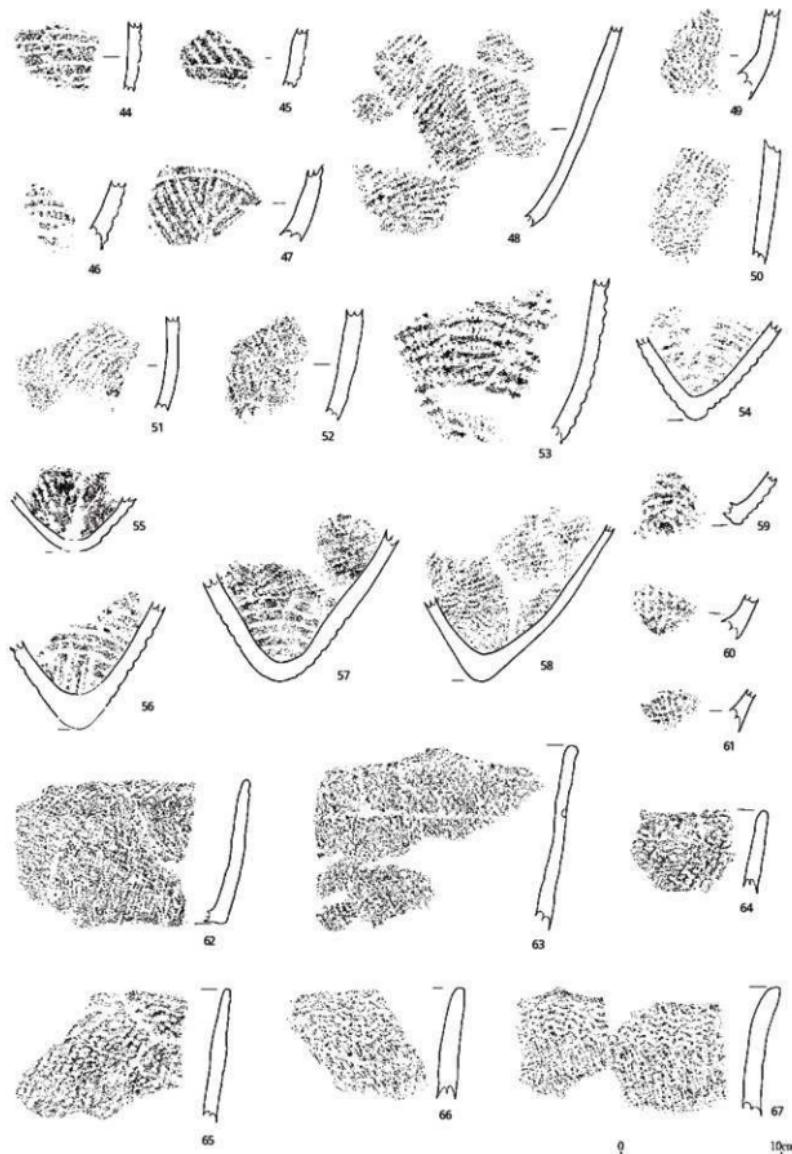
第10図2、3は、波状を呈する折返口縁下に縦位、横位のR L綱文、右下がりの結条体回転文を施している。第13図87は横位のR L綱文を施しており、中位が膨らみ上部が内傾する器形を有する。第13図90は、平坦な折返口縁を有し、R L綱文を横位に施している。また、第13図87、90は第11号土坑において最花式土器と共に伴している。第11図32、33は、弧状の沈線が施されている。第13図88、89、第21図111~113は、口縁部片である。折返口縁下に胴部施文として横位ないし斜位の単節綱文が施される。第21図117~121は、胴部片である。横位の単節綱文や横位にL原体を回転施文している。第21図120は、上部が無文である。これらは最花式土器ないし中期未葉の土器と思われる。



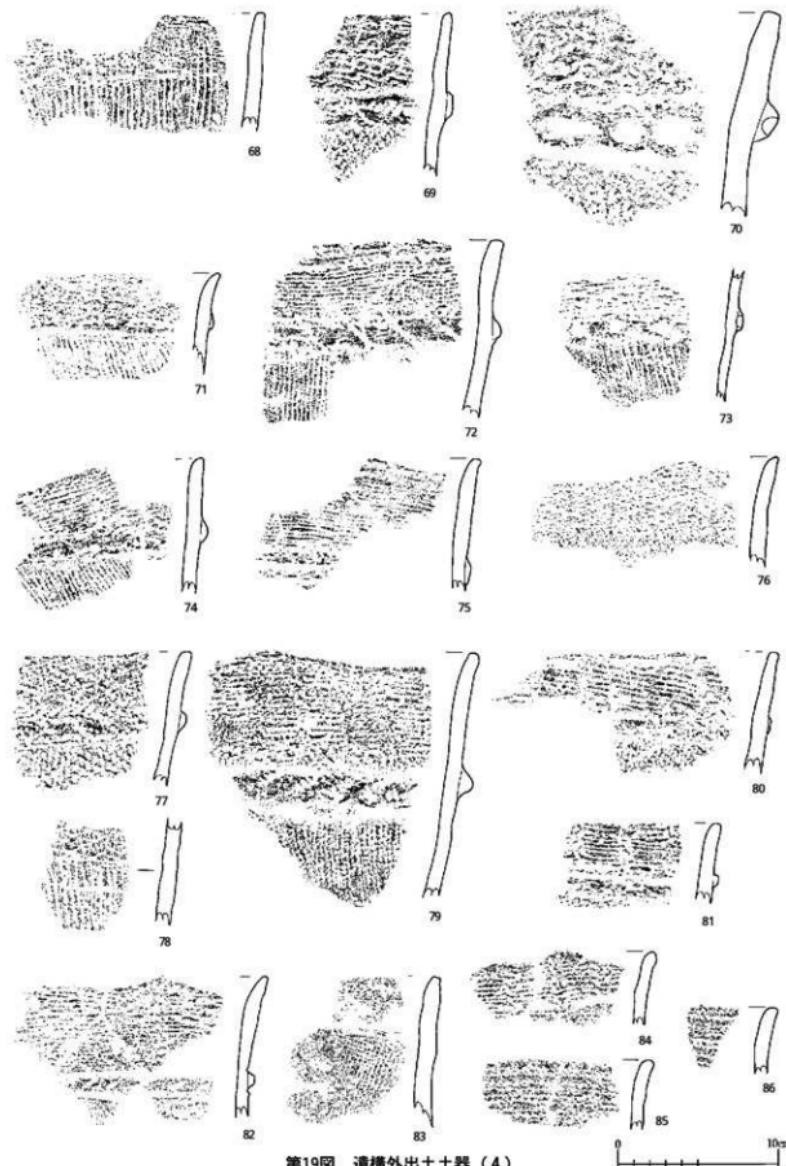
第16図 遺構外出土土器（1）



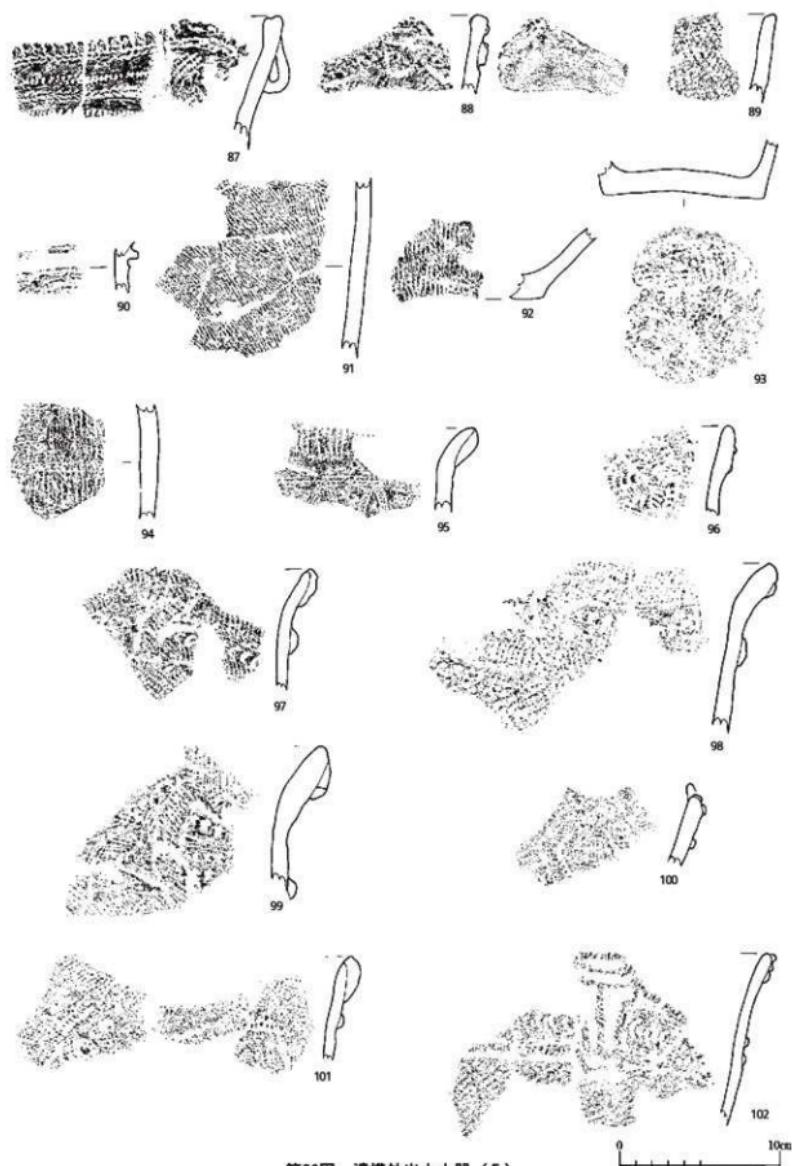
第17図 遺構外出土土器（2）



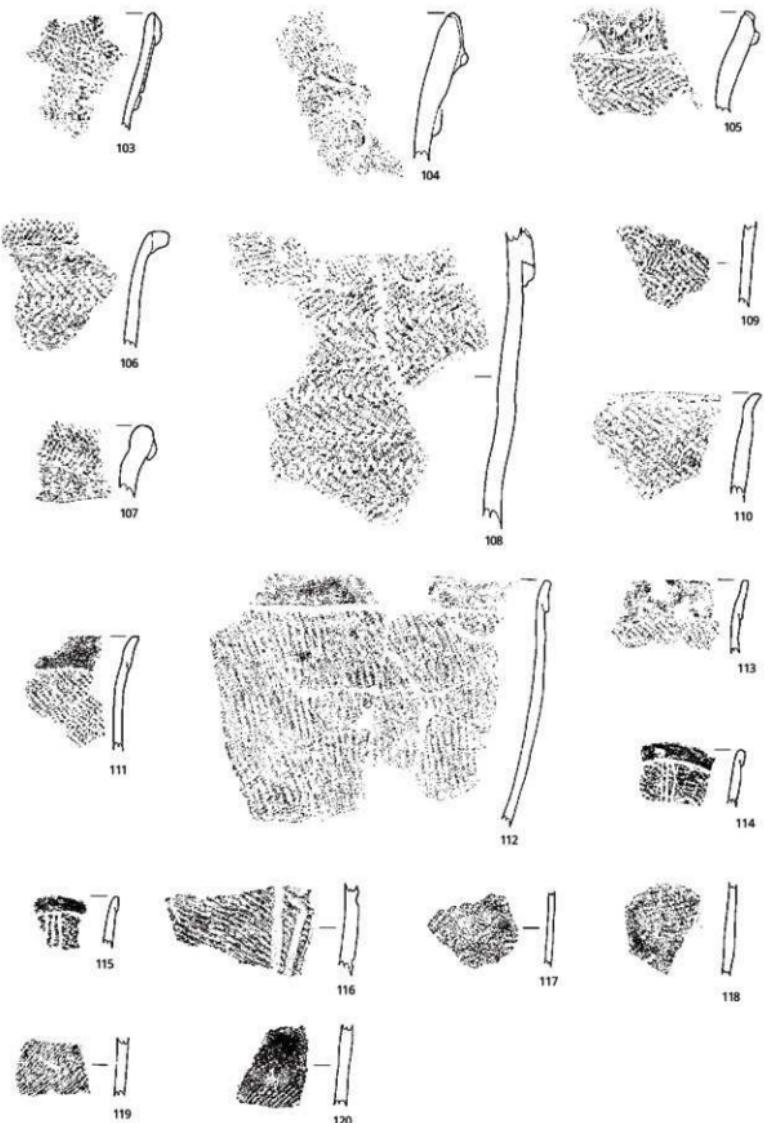
第18図 遺構外出土土器（3）



第19図 遺構外出土土器 (4)



第20図 遺構外出土土器（5）



第21図 遺構外出土土器（6）



## 2. 石 器

本遺跡で遺構内外より出土した石器は、下記のとおりである。遺構内より18点、遺構外より223点、計241点が出土している。(赤鉄鉱を除く)

- ・石鎌・石槍・石錐・石匙・石範・不定形石器・その他の剥片石器・剥片・石核・磨製石斧・石錘
- ・敲磨器類・半円状扁平打製石器・石皿

### 石鎌(第22図1～4)

4点出土している。第22図1～3は、無茎凹基である。第22図3は、やや荒い調整が見られる。第22図4は、一部欠損しているが、円基もしくは尖基と思われる。

### 石槍(第22図5～7)

3点出土している。第22図5、6は、細長い形状である。端部には摩滅痕が認められる。第22図7は、幅広い形状である、器体全面に調整が見られる。また、茎部を有する。

### 石錐(第23図8、9)

2点出土している。第22図8は素材の周縁及び刃部に調整が認められる。第23図9は、素材の形状を利用し、突出部を作り、その後錐部のみに調整が認められる。

### 石匙(第14図2、第23図10～13、第24図14～19、第25図20～25、第26図26～29)

28点出土している。第14図2、第23～26図10～27は縦形、第26図28、29は横形である。縦型のものには、細身で両側縁が直線的なもの(第24図14～16、18、19)、細身で両側縁が曲線的なもの(第24図17)、第25図25)、細身で片側の側縁が直線的、もう一方の側縁が曲線的なもの(第23図10、12、13)、幅広で両側縁が直線的なもの(第25図21～23)、幅広で両側縁が曲線的なもの(第26図27)、幅広で、欠損等の影響かもしれないが抉りの見られるもの(第25図20、24)などが見られる。また、摘み部が幅広いもの(第26図26)が見られる。横型は、欠損品と思われるもの(第26図29)を含め2点が出土している。

### 石範(第14図5、第26図30、31、第27図32～37、第28図38～40)

12点出土している。両面に調整が認められるもの(第26～28図30、32、34、38～40)、背面の調整が側縁のみに認められるもの(第14図5、第26、27図31、33、35～37)が見られる。

### 不定形石器(第14図1、3、4、6、第28図41、42、第29図43～48、第30図49)

91点出土している。腹面ないし腹面及び背面全面に粗い調整を施し、側縁に刃部調整を行うもの(第28図41、42)も見られるが、その他は、縁辺部に刃部調整のみを行うものである。

### その他の剥片石器

3点出土している。全面に荒い調整が認められるものの、刃部調整が見られないものを本類とした。

使用痕剥片(第30図50、51)

55点出土している。使用痕と思われる微細剥離の認められるものである。

二次加工剥片(第30図52、53)

2点出土している。刃部調整ではない二次調整のみが側縁等に認められるものである。

磨製石斧(第15図11、第31図54)

3点出土している。第15図11、第31図54は、欠損品である。

石錘(第31図55)

1点出土している。自然礫の長軸方向両側縁に抉りが認められる。

敲打器類(第15図7、8、第31図56~61、第32図62~66)

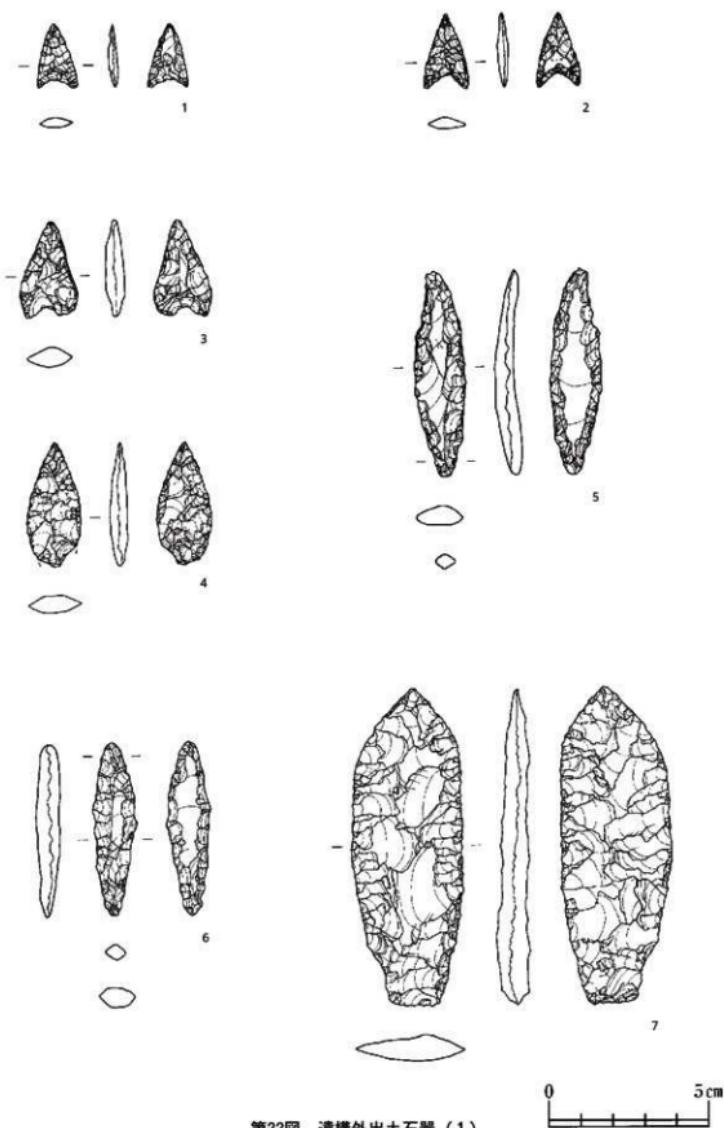
15点の出土である。礫側縁に磨痕のみが認められるもの(第31図56~61)、礫の端部に敲打痕のみが認められるもの(第32図64)、礫の側縁及び端部に敲打痕のみが認められるもの(第32図63)、側面及び端部に敲打痕のみが認められるもの(第15図8、第32図62)、側面中央に敲打痕のみが認められるもの(第32図66)、磨痕、敲打痕、凹痕が複合して認められるもの(第15図7、第32図65)などが見られる。

半円状扁平打製石器(第32図67、第33図68~71)

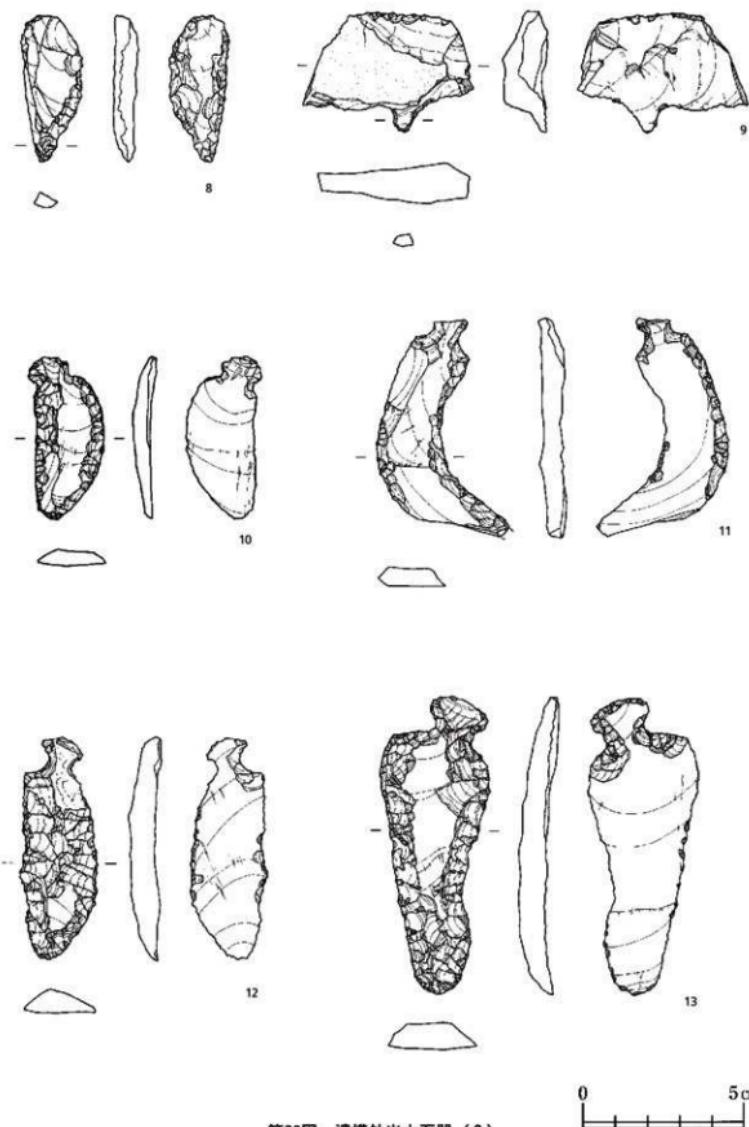
5点出土している。いずれも欠損品である。底辺にのみ磨痕が認められるもの(第32図67、第33図70)と、底辺及び上辺に磨痕の認められるもの(第33図68、69)とがある。また、大半が縱位方向の欠損なのに対し、第33図71は横位方向の欠損が認められる。

石皿(第15図9、10、第33図72、73)

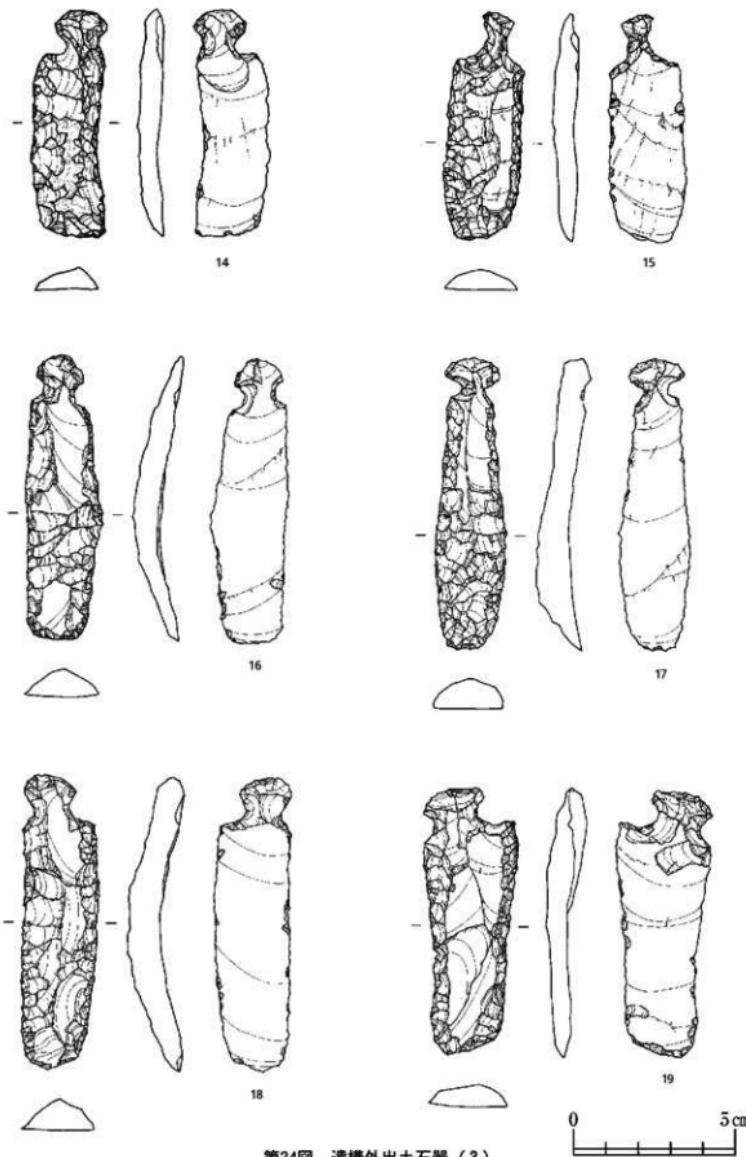
4点が出土している。いずれも欠損品であるあるが、第33図72は、凹痕を有し、破損後、敲磨器に転用されたものと思われる。



第22図 遺構外出土石器（1）



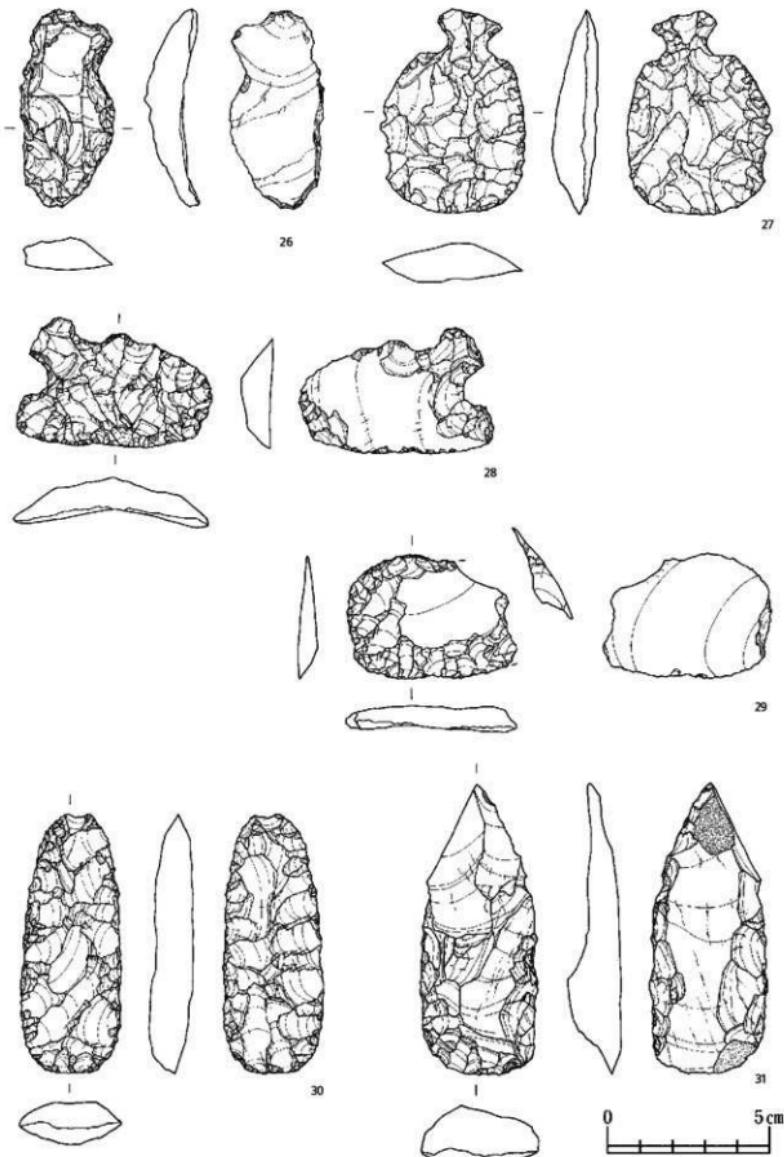
第23図 遺構外出土石器（2）



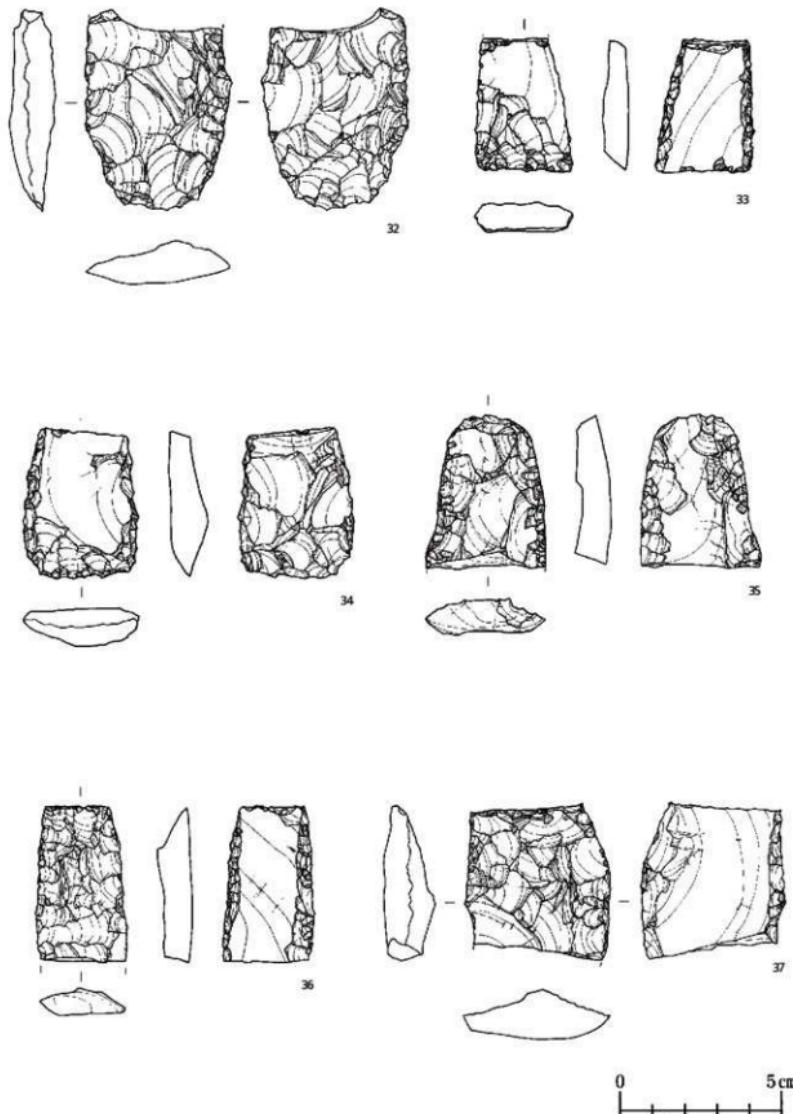
第24図 遺構外出土石器（3）



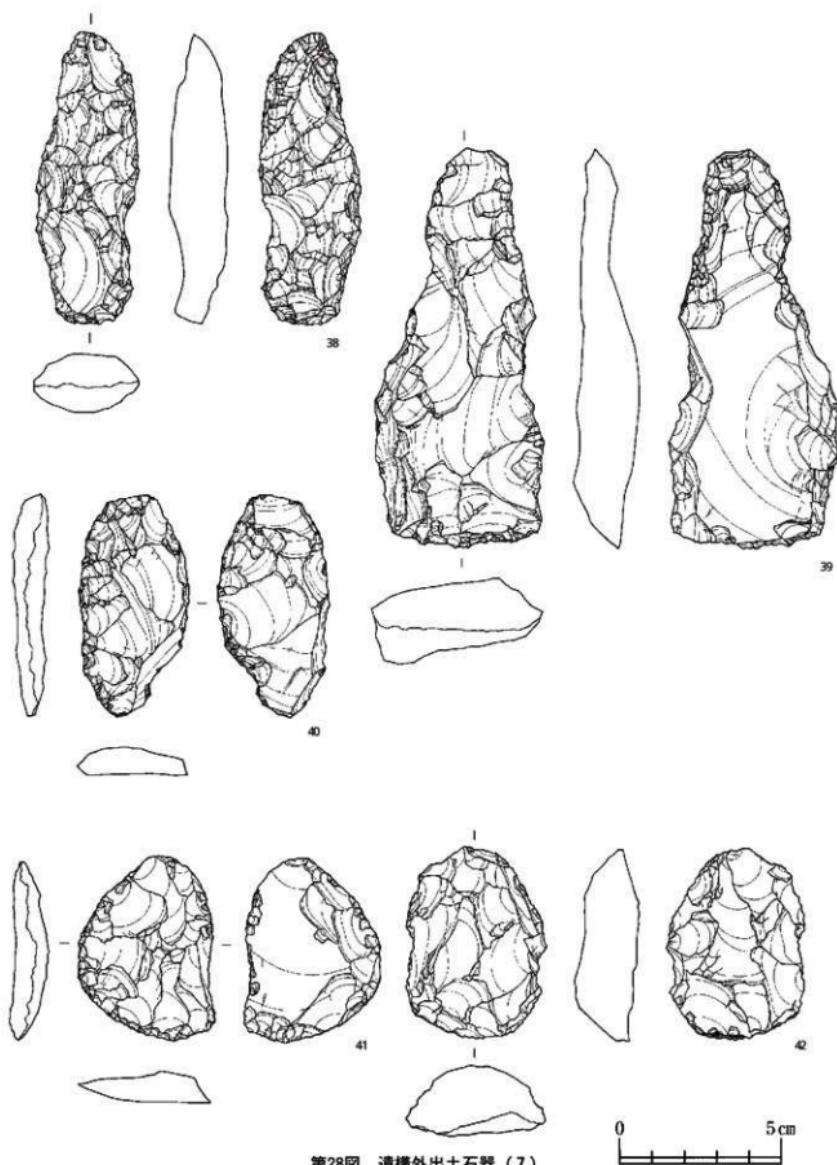
第25図 遺構外出土石器 (4)



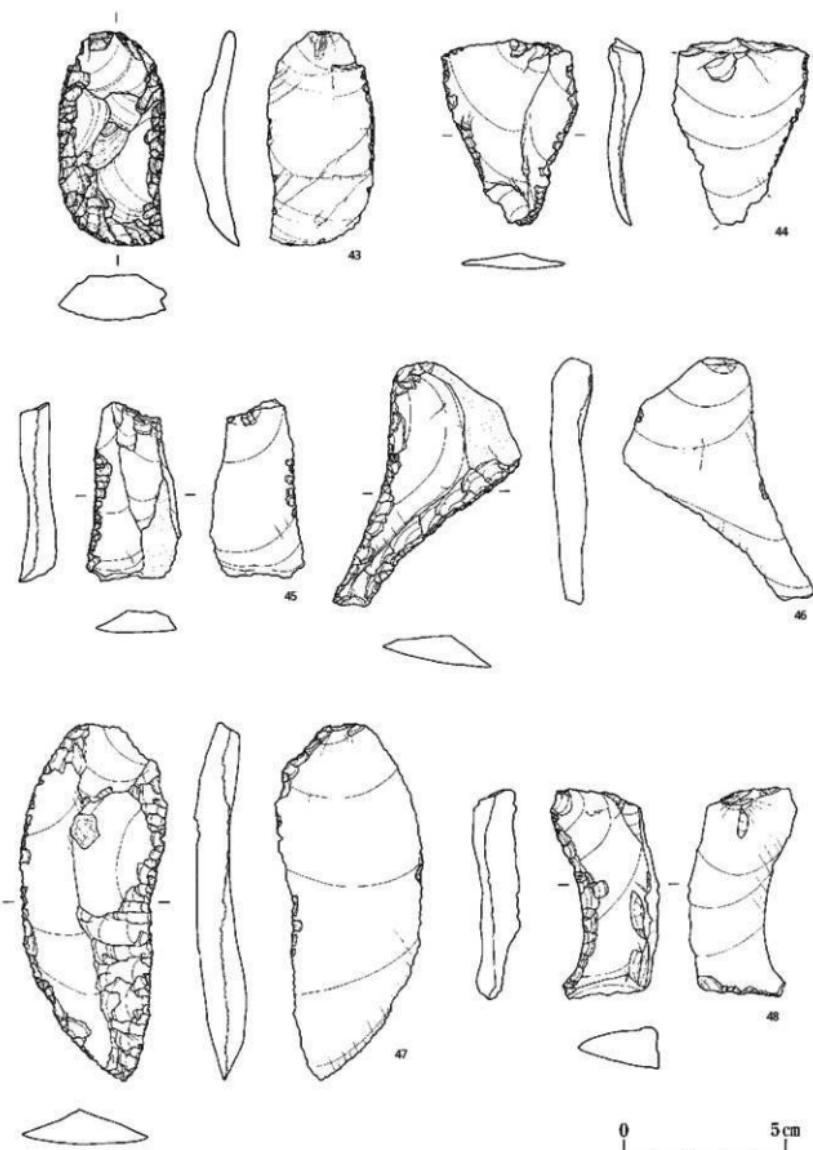
第26図 遺構外出土石器（5）



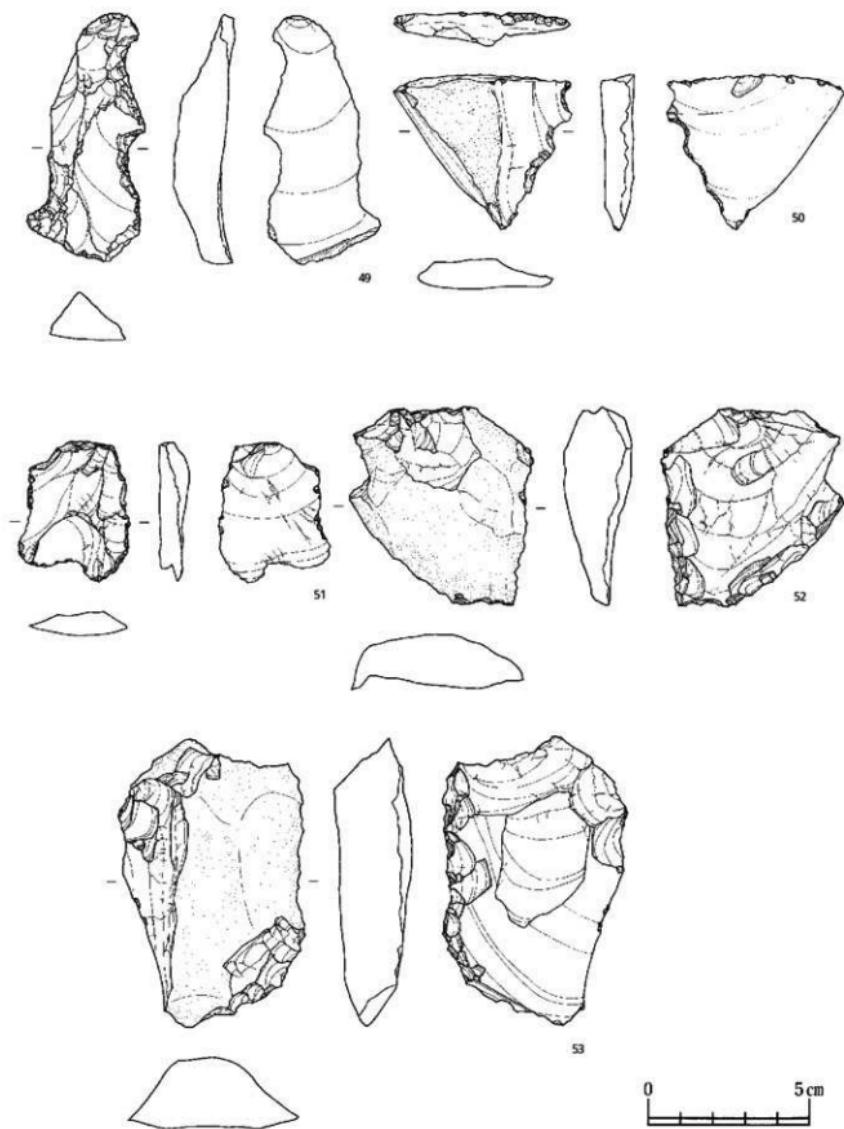
第27図 遺構外出土石器（6）



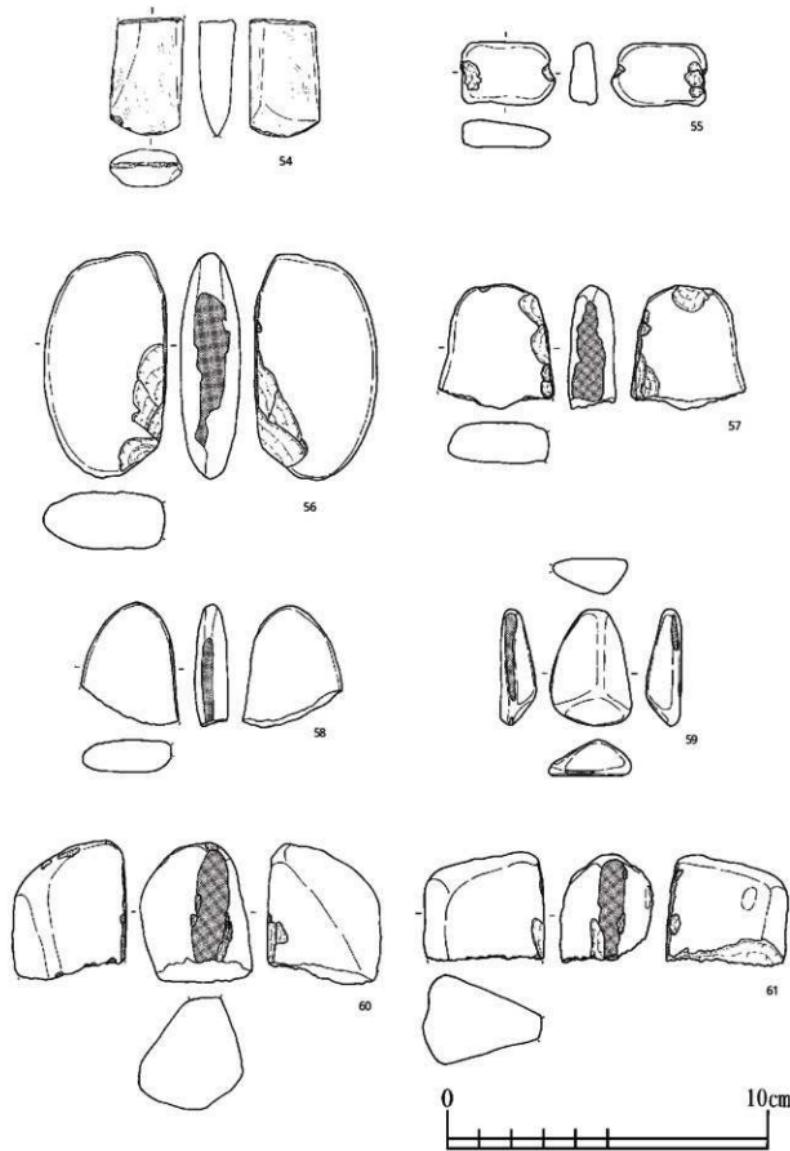
第28図 遺構外出土石器 (7)



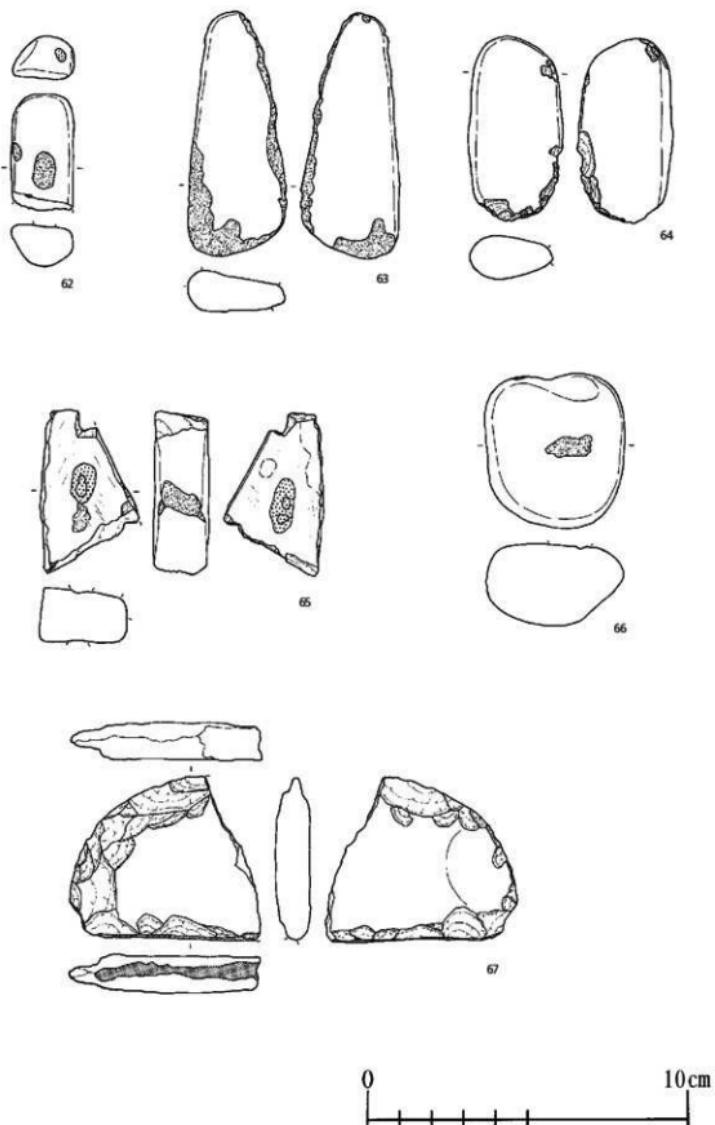
第29図 遺構外出土石器 (8)



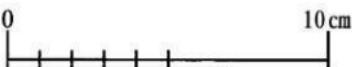
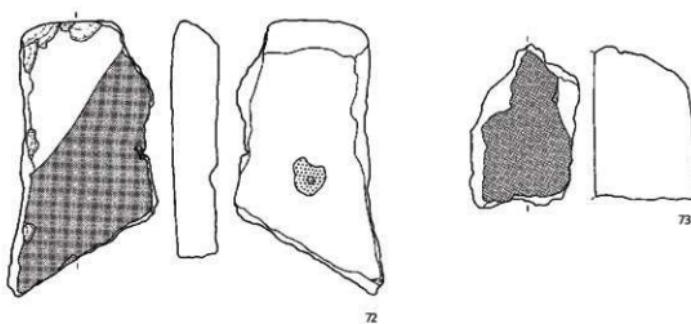
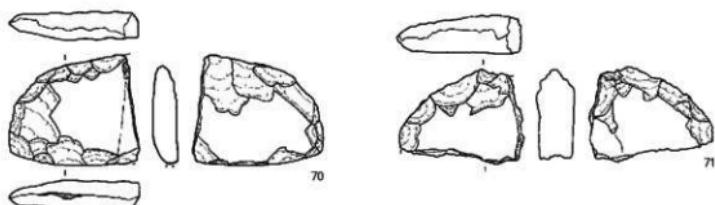
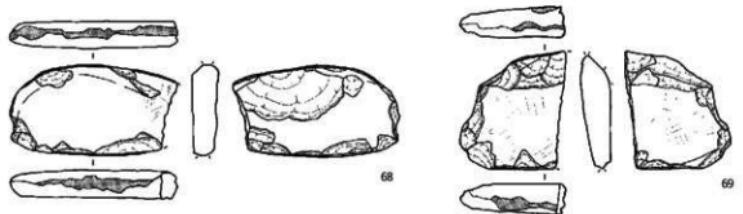
第30図 遺構外出土石器（9）



第31図 遺構外出土石器 (10)



第32図 遺構外出土石器 (11)



第33図 遺構外出土石器 (12)

表第1 條內出土器物觀察表

表 2 檢樣內出土石器計測表

表 3 表 3 遺構外出土器觀察表

器物编号	器物形制	部位	分组	编 号	部位	分组	编 号	部位	分组	编 号
器物编号	器物形制	部位	分组	编 号	部位	分组	编 号	部位	分组	编 号
201-204	圆盒	盖内	II	201A	口沿	II	201B	盖内	II	201C
202-205	一系三足盒	盖内	III	202A	口沿	III	202B	盖内	III	202C
206-207	一系三足盒	盖内	IV	206A	口沿	IV	206B	盖内	IV	206C
208-209	一系三足盒	盖内	V	208A	口沿	V	208B	盖内	V	208C
210-211	一系三足盒	盖内	VI	210A	口沿	VI	210B	盖内	VI	210C
212-213	一系三足盒	盖内	VII	212A	口沿	VII	212B	盖内	VII	212C
214-215	一系三足盒	盖内	VIII	214A	口沿	VIII	214B	盖内	VIII	214C
216-217	一系三足盒	盖内	IX	216A	口沿	IX	216B	盖内	IX	216C
218-219	一系三足盒	盖内	X	218A	口沿	X	218B	盖内	X	218C
220-221	一系三足盒	盖内	XI	220A	口沿	XI	220B	盖内	XI	220C
222-223	一系三足盒	盖内	XII	222A	口沿	XII	222B	盖内	XII	222C
224-225	一系三足盒	盖内	XIII	224A	口沿	XIII	224B	盖内	XIII	224C
226-227	一系三足盒	盖内	XIV	226A	口沿	XIV	226B	盖内	XIV	226C
228-229	一系三足盒	盖内	XV	228A	口沿	XV	228B	盖内	XV	228C
230-231	一系三足盒	盖内	XVI	230A	口沿	XVI	230B	盖内	XVI	230C
232-233	一系三足盒	盖内	XVII	232A	口沿	XVII	232B	盖内	XVII	232C
234-235	一系三足盒	盖内	XVIII	234A	口沿	XVIII	234B	盖内	XVIII	234C
236-237	一系三足盒	盖内	XIX	236A	口沿	XIX	236B	盖内	XIX	236C
238-239	一系三足盒	盖内	XX	238A	口沿	XX	238B	盖内	XX	238C
240-241	一系三足盒	盖内	XI	240A	口沿	XI	240B	盖内	XI	240C
242-243	一系三足盒	盖内	XII	242A	口沿	XII	242B	盖内	XII	242C
244-245	一系三足盒	盖内	XIII	244A	口沿	XIII	244B	盖内	XIII	244C
246-247	一系三足盒	盖内	XIV	246A	口沿	XIV	246B	盖内	XIV	246C
248-249	一系三足盒	盖内	XV	248A	口沿	XV	248B	盖内	XV	248C
250-251	一系三足盒	盖内	XVI	250A	口沿	XVI	250B	盖内	XVI	250C
252-253	一系三足盒	盖内	XVII	252A	口沿	XVII	252B	盖内	XVII	252C
254-255	一系三足盒	盖内	XVIII	254A	口沿	XVIII	254B	盖内	XVIII	254C
256-257	一系三足盒	盖内	XIX	256A	口沿	XIX	256B	盖内	XIX	256C
258-259	一系三足盒	盖内	XX	258A	口沿	XX	258B	盖内	XX	258C
260-261	一系三足盒	盖内	XI	260A	口沿	XI	260B	盖内	XI	260C
262-263	一系三足盒	盖内	XII	262A	口沿	XII	262B	盖内	XII	262C
264-265	一系三足盒	盖内	XIII	264A	口沿	XIII	264B	盖内	XIII	264C
266-267	一系三足盒	盖内	XIV	266A	口沿	XIV	266B	盖内	XIV	266C
268-269	一系三足盒	盖内	XV	268A	口沿	XV	268B	盖内	XV	268C
270-271	一系三足盒	盖内	XVI	270A	口沿	XVI	270B	盖内	XVI	270C
272-273	一系三足盒	盖内	XVII	272A	口沿	XVII	272B	盖内	XVII	272C
274-275	一系三足盒	盖内	XVIII	274A	口沿	XVIII	274B	盖内	XVIII	274C
276-277	一系三足盒	盖内	XIX	276A	口沿	XIX	276B	盖内	XIX	276C
278-279	一系三足盒	盖内	XX	278A	口沿	XX	278B	盖内	XX	278C
280-281	一系三足盒	盖内	XI	280A	口沿	XI	280B	盖内	XI	280C
282-283	一系三足盒	盖内	XII	282A	口沿	XII	282B	盖内	XII	282C
284-285	一系三足盒	盖内	XIII	284A	口沿	XIII	284B	盖内	XIII	284C
286-287	一系三足盒	盖内	XIV	286A	口沿	XIV	286B	盖内	XIV	286C
288-289	一系三足盒	盖内	XV	288A	口沿	XV	288B	盖内	XV	288C
290-291	一系三足盒	盖内	XVI	290A	口沿	XVI	290B	盖内	XVI	290C
292-293	一系三足盒	盖内	XVII	292A	口沿	XVII	292B	盖内	XVII	292C
294-295	一系三足盒	盖内	XVIII	294A	口沿	XVIII	294B	盖内	XVIII	294C
296-297	一系三足盒	盖内	XIX	296A	口沿	XIX	296B	盖内	XIX	296C
298-299	一系三足盒	盖内	XX	298A	口沿	XX	298B	盖内	XX	298C
300-301	一系三足盒	盖内	XI	300A	口沿	XI	300B	盖内	XI	300C
302-303	一系三足盒	盖内	XII	302A	口沿	XII	302B	盖内	XII	302C
304-305	一系三足盒	盖内	XIII	304A	口沿	XIII	304B	盖内	XIII	304C
306-307	一系三足盒	盖内	XIV	306A	口沿	XIV	306B	盖内	XIV	306C
308-309	一系三足盒	盖内	XV	308A	口沿	XV	308B	盖内	XV	308C
310-311	一系三足盒	盖内	XVI	310A	口沿	XVI	310B	盖内	XVI	310C
312-313	一系三足盒	盖内	XVII	312A	口沿	XVII	312B	盖内	XVII	312C
314-315	一系三足盒	盖内	XVIII	314A	口沿	XVIII	314B	盖内	XVIII	314C
316-317	一系三足盒	盖内	XIX	316A	口沿	XIX	316B	盖内	XIX	316C
318-319	一系三足盒	盖内	XX	318A	口沿	XX	318B	盖内	XX	318C
320-321	一系三足盒	盖内	XI	320A	口沿	XI	320B	盖内	XI	320C
322-323	一系三足盒	盖内	XII	322A	口沿	XII	322B	盖内	XII	322C
324-325	一系三足盒	盖内	XIII	324A	口沿	XIII	324B	盖内	XIII	324C
326-327	一系三足盒	盖内	XIV	326A	口沿	XIV	326B	盖内	XIV	326C
328-329	一系三足盒	盖内	XV	328A	口沿	XV	328B	盖内	XV	328C
330-331	一系三足盒	盖内	XVI	330A	口沿	XVI	330B	盖内	XVI	330C
332-333	一系三足盒	盖内	XVII	332A	口沿	XVII	332B	盖内	XVII	332C
334-335	一系三足盒	盖内	XVIII	334A	口沿	XVIII	334B	盖内	XVIII	334C
336-337	一系三足盒	盖内	XIX	336A	口沿	XIX	336B	盖内	XIX	336C
338-339	一系三足盒	盖内	XX	338A	口沿	XX	338B	盖内	XX	338C
340-341	一系三足盒	盖内	XI	340A	口沿	XI	340B	盖内	XI	340C
342-343	一系三足盒	盖内	XII	342A	口沿	XII	342B	盖内	XII	342C
344-345	一系三足盒	盖内	XIII	344A	口沿	XIII	344B	盖内	XIII	344C
346-347	一系三足盒	盖内	XIV	346A	口沿	XIV	346B	盖内	XIV	346C
348-349	一系三足盒	盖内	XV	348A	口沿	XV	348B	盖内	XV	348C
350-351	一系三足盒	盖内	XVI	350A	口沿	XVI	350B	盖内	XVI	350C
352-353	一系三足盒	盖内	XVII	352A	口沿	XVII	352B	盖内	XVII	352C
354-355	一系三足盒	盖内	XVIII	354A	口沿	XVIII	354B	盖内	XVIII	354C
356-357	一系三足盒	盖内	XIX	356A	口沿	XIX	356B	盖内	XIX	356C
358-359	一系三足盒	盖内	XX	358A	口沿	XX	358B	盖内	XX	358C
360-361	一系三足盒	盖内	XI	360A	口沿	XI	360B	盖内	XI	360C
362-363	一系三足盒	盖内	XII	362A	口沿	XII	362B	盖内	XII	362C
364-365	一系三足盒	盖内	XIII	364A	口沿	XIII	364B	盖内	XIII	364C
366-367	一系三足盒	盖内	XIV	366A	口沿	XIV	366B	盖内	XIV	366C
368-369	一系三足盒	盖内	XV	368A	口沿	XV	368B	盖内	XV	368C
370-371	一系三足盒	盖内	XVI	370A	口沿	XVI	370B	盖内	XVI	370C
372-373	一系三足盒	盖内	XVII	372A	口沿	XVII	372B	盖内	XVII	372C
374-375	一系三足盒	盖内	XVIII	374A	口沿	XVIII	374B	盖内	XVIII	374C
376-377	一系三足盒	盖内	XIX	376A	口沿	XIX	376B	盖内	XIX	376C
378-379	一系三足盒	盖内	XX	378A	口沿	XX	378B	盖内	XX	378C
380-381	一系三足盒	盖内	XI	380A	口沿	XI	380B	盖内	XI	380C
382-383	一系三足盒	盖内	XII	382A	口沿	XII	382B	盖内	XII	382C
384-385	一系三足盒	盖内	XIII	384A	口沿	XIII	384B	盖内	XIII	384C
386-387	一系三足盒	盖内	XIV	386A	口沿	XIV	386B	盖内	XIV	386C
388-389	一系三足盒	盖内	XV	388A	口沿	XV	388B	盖内	XV	388C
390-391	一系三足盒	盖内	XVI	390A	口沿	XVI	390B	盖内	XVI	390C
392-393	一系三足盒	盖内	XVII	392A	口沿	XVII	392B	盖内	XVII	392C
394-395	一系三足盒	盖内	XVIII	394A	口沿	XVIII	394B	盖内	XVIII	394C
396-397	一系三足盒	盖内	XIX	396A	口沿	XIX	396B	盖内	XIX	396C
398-399	一系三足盒	盖内	XX	398A	口沿	XX	398B	盖内	XX	398C
400-401	一系三足盒	盖内	XI	400A	口沿	XI	400B	盖内	XI	400C
402-403	一系三足盒	盖内	XII	402A	口沿	XII	402B	盖内	XII	402C
404-405	一系三足盒	盖内	XIII	404A	口沿	XIII	404B	盖内	XIII	404C
406-407	一系三足盒	盖内	XIV	406A	口沿	XIV	406B	盖内	XIV	406C
408-409	一系三足盒	盖内	XV	408A	口沿	XV	408B	盖内	XV	408C
410-411	一系三足盒	盖内	XVI	410A	口沿	XVI	410B	盖内	XVI	410C
412-413	一系三足盒	盖内	XVII	412A	口沿	XVII	412B	盖内	XVII	412C
414-415	一系三足盒	盖内	XVIII	414A	口沿	XVIII	414B	盖内	XVIII	414C
416-417	一系三足盒	盖内	XIX	416A	口沿	XIX	416B	盖内	XIX	416C
418-419	一系三足盒	盖内	XX	418A	口沿	XX	418B	盖内	XX	418C
420-421	一系三足盒	盖内	XI	420A	口沿	XI	420B	盖内	XI	420C
422-423	一系三足盒	盖内	XII	422A	口沿	XII	422B	盖内	XII	422C
424-425	一系三足盒	盖内	XIII	424A	口沿	XIII	424B	盖内	XIII	424C
426-427	一系三足盒	盖内	XIV	426A	口沿	XIV	426B	盖内	XIV	426C
428-429	一系三足盒	盖内	XV	428A	口沿	XV	428B	盖内	XV	428C
430-431	一系三足盒	盖内	XVI	430A	口沿	XVI	430B	盖内	XVI	430C
432-433	一系三足盒	盖内	XVII	432A	口沿	XVII	432B	盖内	XVII	432C
434-435	一系三足盒	盖内	XVIII	434A	口沿	XVIII	434B	盖内	XVIII	434C
436-437	一系三足盒	盖内	XIX	436A	口沿	XIX	436B	盖内	XIX	436C
438-439	一系三足盒	盖内	XX	438A	口沿	XX	438B	盖内	XX	438C
440-441	一系三足盒	盖内	XI	440A	口沿	XI	440B	盖内	XI	440C
442-443	一系三足盒	盖内	XII	442A	口沿	XII	442B	盖内	XII	442C
444-445	一系三足盒	盖内	XIII	444A	口沿	XIII	444B	盖内	XIII	444C
446-447	一系三足盒	盖内	XIV	446A	口沿	XIV	446B	盖内	XIV	446C
448-449	一系三足盒	盖内	XV	448A	口沿	XV	448B	盖内	XV	448C
450-451	一系三足盒	盖内	XVI	450A	口沿	XVI	450B	盖内	XVI	450C
452-453	一系三足盒	盖内	XVII	452A	口沿	XVII	452B	盖内	XVII	452C
454-455	一系三足盒	盖内	XVIII	454A	口沿	XVIII	454B	盖内	XVIII	454C
456-457	一系三足盒	盖内</td								

地質構造物番号	出土地点	地質構造物名	層位	地質	堆積物	石炭	鉱種	地質		地質		地質		地質	
								地質計測面(m.s.s.)	高さ	堆積面	高さ	堆積面	高さ	堆積面	高さ
A-1-212	0906020903		21.0	31.0	7.0	4.5	層別						21.0	31.0	Z1.1
A-1-211	0906020903	5.50-40.0	20.0	28.0	9.0	5.0	層別						20.0	30.0	Z1.1
A-1-209	0906020904	3.40-27.0	10.0	9.0	5.0	3.0	層別						20.0	27.0	Z1.1
A-1-208	0906020905	21.0	37.0	1.0	1.0	1.0	層別						21.0	37.0	Z1.1
A-1-207	0906020905	6.10-37.0	19.0	38.3	1.0	1.0	層別						20.0	38.3	Z1.1
A-1-214	0906020907	31.0	31.0	7.0	6.0	6.0	層別						18.0	40.0	Z1.1
A-1-214	0906020907	35.0-29.0	16.0	12.0	5.0	5.0	層別						18.0	35.0	Z1.1
A-1-214	0906020907	40.0-45.0	9.0	15.0	5.0	5.0	層別						18.0	45.0	Z1.1
A-1-214	0906020907	45.0-50.0	10.0	5.0	5.0	5.0	層別						18.0	50.0	Z1.1
A-1-213	0906020910	26.0-30.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層別						18.0	30.0	Z1.1
A-1-213	0906020910	36.0-40.0	4.0	1.0	1.0	1.0	層別						18.0	40.0	Z1.1
A-1-213	0906020910	46.0-50.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層別						18.0	50.0	Z1.1
A-1-213	0906020910	56.0-70.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層別						18.0	70.0	Z1.1
A-1-213	0906020910	76.0-80.0	8.0	8.0	8.0	8.0	層別						18.0	80.0	Z1.1
A-1-213	0906020910	86.0-90.0	10.0	10.0	10.0	10.0	層別						18.0	90.0	Z1.1
A-1-213	0906020910	96.0-100.0	10.0	10.0	10.0	10.0	層別						18.0	100.0	Z1.1
A-1-213	0906020910	106.0-110.0	10.0	10.0	10.0	10.0	層別						18.0	110.0	Z1.1
A-1-212	0906020911	4.0-20.0	26.0	7.0	7.0	7.0	層別						18.0	26.0	Z1.1
A-1-212	0906020911	24.0-22.0	8.0	4.0	4.0	4.0	層別						18.0	22.0	Z1.1
A-1-212	0906020911	26.0-24.0	5.0	5.0	5.0	5.0	層別						18.0	24.0	Z1.1
A-1-212	0906020911	21.0-20.0	4.0	4.0	4.0	4.0	層別						18.0	20.0	Z1.1
A-1-212	0906020911	26.0-30.0	5.0	5.0	5.0	5.0	層別						18.0	30.0	Z1.1
A-1-212	0906020911	36.0-30.0	11.0	9.0	9.0	9.0	層別						18.0	30.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	28.0-26.0	9.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	26.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	34.0-32.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	32.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	40.0-38.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	38.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	46.0-44.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	44.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	52.0-50.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	50.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	58.0-56.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	56.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	64.0-62.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	62.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	68.0-66.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	66.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	72.0-70.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	70.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	78.0-76.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	76.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	84.0-82.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	82.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	88.0-86.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	86.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	94.0-92.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	92.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	98.0-96.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	96.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	104.0-102.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	102.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	110.0-108.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	108.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	116.0-114.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	114.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	122.0-120.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	120.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	128.0-126.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	126.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	134.0-132.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	132.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	138.0-136.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	136.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	144.0-142.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	142.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	150.0-148.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	148.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	156.0-154.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	154.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	162.0-160.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	160.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	168.0-166.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	166.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	174.0-172.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	172.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	180.0-178.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	178.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	186.0-184.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	184.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	192.0-190.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	190.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	198.0-196.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	196.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	204.0-202.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	202.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	210.0-208.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	208.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	216.0-214.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	214.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	222.0-220.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	220.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	228.0-226.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	226.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	234.0-232.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	232.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	240.0-238.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	238.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	248.0-246.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	246.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	256.0-254.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	254.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	262.0-260.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	260.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	268.0-266.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	266.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	274.0-272.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	272.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	280.0-278.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	278.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	288.0-286.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	286.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	296.0-294.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	294.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	304.0-302.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	302.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	312.0-310.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	310.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	318.0-316.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	316.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	324.0-322.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	322.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	332.0-330.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	330.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	338.0-336.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	336.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	344.0-342.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	342.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	352.0-350.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	350.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	360.0-358.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	358.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	368.0-366.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	366.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	376.0-374.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	374.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	384.0-382.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	382.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	392.0-390.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	390.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	400.0-398.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	398.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	408.0-406.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	406.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	416.0-414.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	414.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	424.0-422.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	422.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	432.0-430.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	430.0	Z1.1
A-1-209	0906020912	438.0-436.0	8.0	11.2	1.0	1.0	層別						18.0	436.0</	



## ま と め

近野遺跡は、青森市大字安田字近野、三内字丸山に所在する。地形的には、青森市西部の丘陵地北東端部の段丘面上に位置する。

当委員会では、宅地分譲地の造成工事に先立ち、本遺跡の東端に相当する標高9~13mの低位段丘上において調査面積1,614m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。調査区は、全体として南西側から北東側へ緩やかに下る斜面であるが、調査区東側では、沢地に下る若干急な斜面が見られる。調査区は、休耕畠地という状況であったためか、大半が第V層、第VI層まで攪乱を受けていた。縄文時代の遺物を含む第IV層は、調査区東側で主に確認しており、調査区西側では、部分的な確認に留まる。

調査の結果、竪穴式住居跡6軒、土坑11基、小ピット11基を検出した。また、出土した遺物には、縄文時代早期中葉~中期末葉の土器、石器がある。出土量としては、ダンボール箱換算で15箱が出土した。

竪穴式住居跡は、調査区西側から中央部にかけて分布する。平面形は、隅丸長方形!軒を除き、ほぼ円形ないし梢円形が基調である。北西~南東の長軸方向のもの1軒、その他が2軒である。規模は、約2~3.5mに収まる。また、柱穴は、2本主柱のものが5軒と多数であった。時期の詳細不明なものが多いが、第3号竪穴式住居跡の土器片囲炉では、最花式土器及びほぼ併行と思われる土器が用いられていた。また、第2号竪穴式住居跡覆土出土土器と第3号竪穴式住居跡の土器片囲炉の土器には、接合関係が見られた。

土坑は、8基が調査区IS~JC-212~214グリッドに位置し比較的まとまって分布している。平面形は、円形ないし梢円形で、断面形は、緩やかに立ち上がる皿状のものが多数である。袋状、フラスコ状のものは、確認していないが、上部削平の影響もあるものと思われる。確認面における規模は、約0.5~1.5mに収まる。時期は、不明なものが多いものの、第11号土坑では、覆土より最花式土器等中期末葉の土器が複数個体出土している。

小ピットは、9基がIS~IT-214、215グリッドに集中している。柱穴の用途が想定されるものもあり、竪穴式住居跡等の柱穴だったものもあるのかもしれないが、時期を含めて詳細は不明である。

土器は、縄文時代早期中葉から中期末葉のものが出土しているが、主体を占めるものは、縄文時代前期中葉の円筒下層a、b式土器である。それに次いで前期前半の早稻田6類土器や中期末葉の最花式土器等が出土している。第I層及び調査区東側の第IV層から出土しているが、第IV層においても点在する破片の状況で出土している。出土状況における時期差等は把握できなかった。

石器は、調整痕、使用痕の見られないフレークや原礫を除いて遺構内外の合計で241点が出土した。遺構外出土のものは、土器と同様大半が第I層及び調査区東側の第IV層から出土している。器種は、石鎌、石槍、石匙、石錐、石範、不定形石器、磨製石斧、石錘、敲磨器類、半円状扁平打製石器、石皿等が出土している。

調査区は本遺跡の東端にあたり、標高も10m前後と低い地点であるが、集落跡と判断できる。しかし、調査区の周囲においては、東側で沖館川の支流と思われる沢が確認されており、これは調査区の北側及び西側にも存在するものと推測される。また、調査区外南側、現在の総合運動公園内においては、これまでの調査で縄文時代後期の遺物包含層や平安時代の集落が主として確認されている。そのため、調査区内の集落の範囲は、南から南西方向側にまだ多少は広がるかもしれないが、広範囲とはならず小規模

なものに留まるものと考えられる。

最後になりましたが、現地調査から整理、報告書刊行に至るまで、ご指導、ご協力を賜りました関係各位に感謝の意を表する次第であります。また、埋蔵文化財保護の主旨をご理解して下さり、終始、ご家族の皆様共々大変快く調査に御協力いただきました 手 塚 宇一郎 氏に深くお礼申し上げます。

## 引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1974 中の平遺跡発掘調査報告書 青森県埋蔵文化財調査報告書第25集
- 青森県教育委員会 1977 三内澤部遺跡発掘調査報告書 青森県埋蔵文化財調査報告書第41集
- 青森県教育委員会 1975 近野遺跡発掘調査報告書(Ⅱ) 青森県埋蔵文化財調査報告書第22集
- 青森県教育委員会 1997 近野遺跡V 青森県埋蔵文化財調査報告書第216集
- 青森県教育委員会 1999 安田(2)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第255集
- 青森県教育委員会 1999 三内丸山(6)遺跡 I 青森県埋蔵文化財調査報告書第257集
- 青森県教育委員会 1999 三内丸山(5)遺跡発掘調査報告書 青森県埋蔵文化財調査報告書第269集
- 青森県教育委員会 2000 三内丸山(6)遺跡II 青森県埋蔵文化財調査報告書第279集
- 青森県教育委員会 2001 宮山(3)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第294集
- 青森県教育委員会 2001 安田(2)遺跡II 青森県埋蔵文化財調査報告書第303集
- 青森県教育委員会 2001 三内丸山(6)遺跡III 青森県埋蔵文化財調査報告書第307集
- 青森県教育委員会 2002 近野遺跡VI 青森県埋蔵文化財調査報告書第315集
- 青森県教育委員会 2002 安田(2)遺跡III 青森県埋蔵文化財調査報告書第321集
- 青森県教育委員会 2002 三内丸山(6)遺跡IV 青森県埋蔵文化財調査報告書第327集
- 青森市教育委員会 1962 三内靈園遺跡調査概報 青森市の文化財1
- 青森市教育委員会 1970 三内丸山遺跡調査概報 青森市の文化財4
- 青森市教育委員会 1993 三内丸山(2)遺跡発掘調査概報 青森市埋蔵文化財調査報告書第18集
- 青森市教育委員会 1994 小三内遺跡発掘調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第23集
- 青森市教育委員会 1994 三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第24集
- 青森市教育委員会 1995 市内遺跡詳細分布調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 青森市教育委員会 1997 市内遺跡詳細分布調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第31集
- 青森市教育委員会 1998 市内遺跡詳細分布調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第39集
- 青森市教育委員会 2001 市内遺跡発掘調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第59集
- 青森市教育委員会 2002 大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第61集
- 青森市教育委員会 2002 市内遺跡発掘調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第64集
- 青森市螢沢遺跡発掘調査団 1979 螢沢遺跡
- 三宅徹也 1989 「円筒土器下層様式」 繩文土器大觀 1 小学館
- 村越潔 1974 円筒土器文化 雄山閣

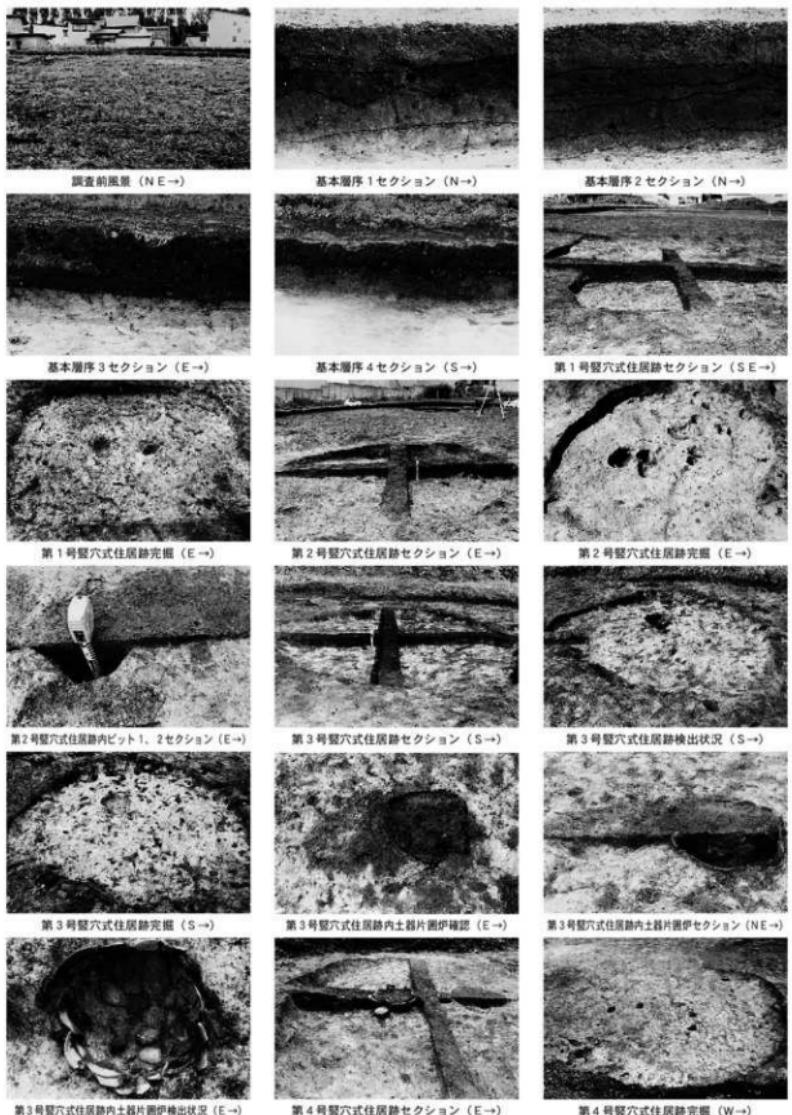


写真 1 調査前風景・基本層序・竪穴式住居跡 (1)

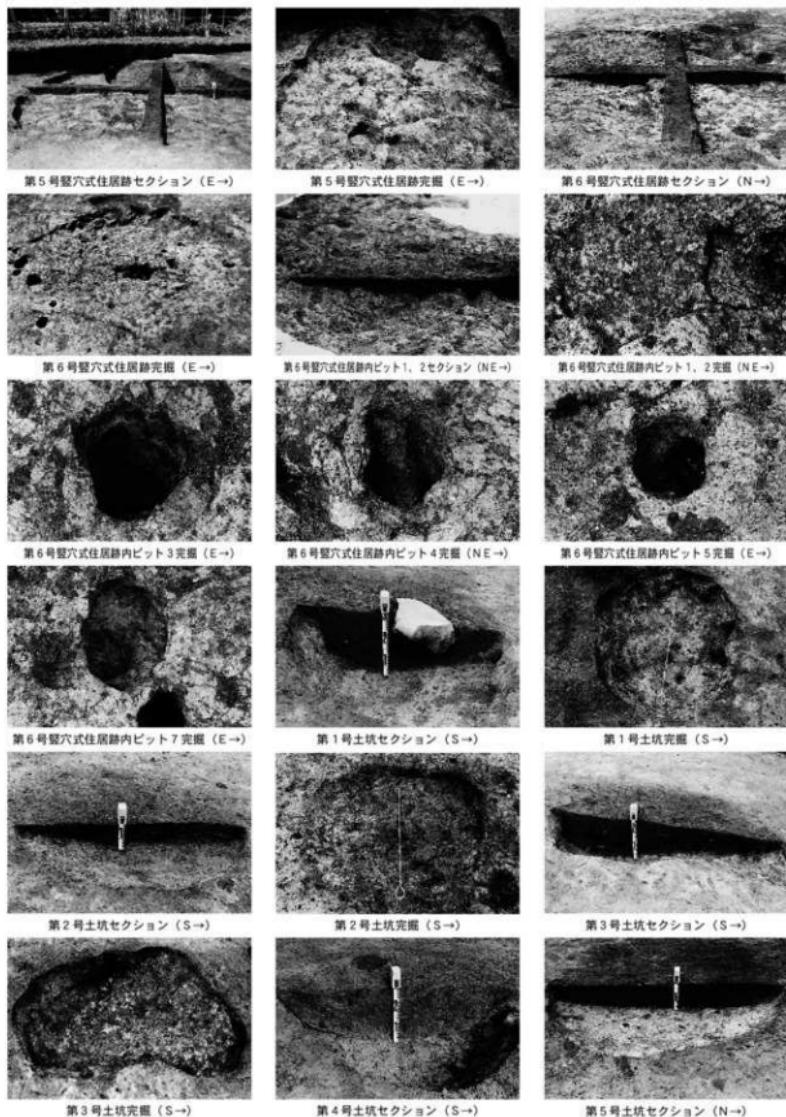


写真2 竪穴式住居跡 (2)・土坑 (1)

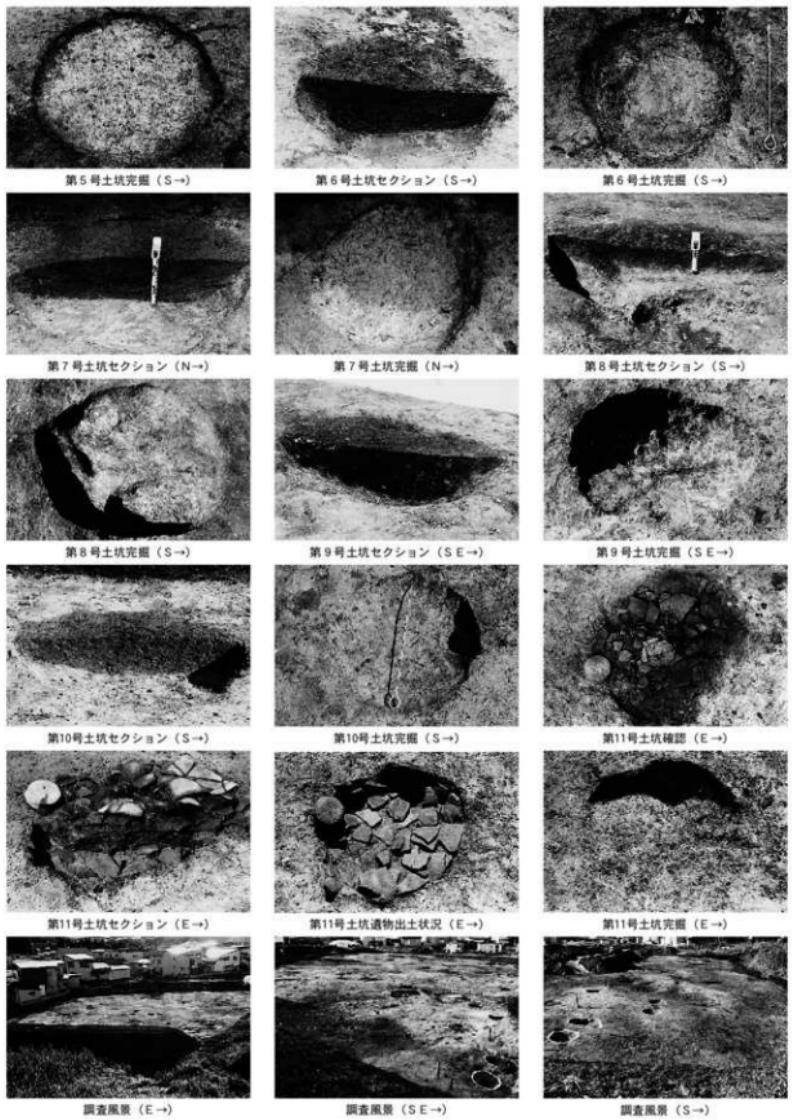


写真3 土坑(2)・調査風景

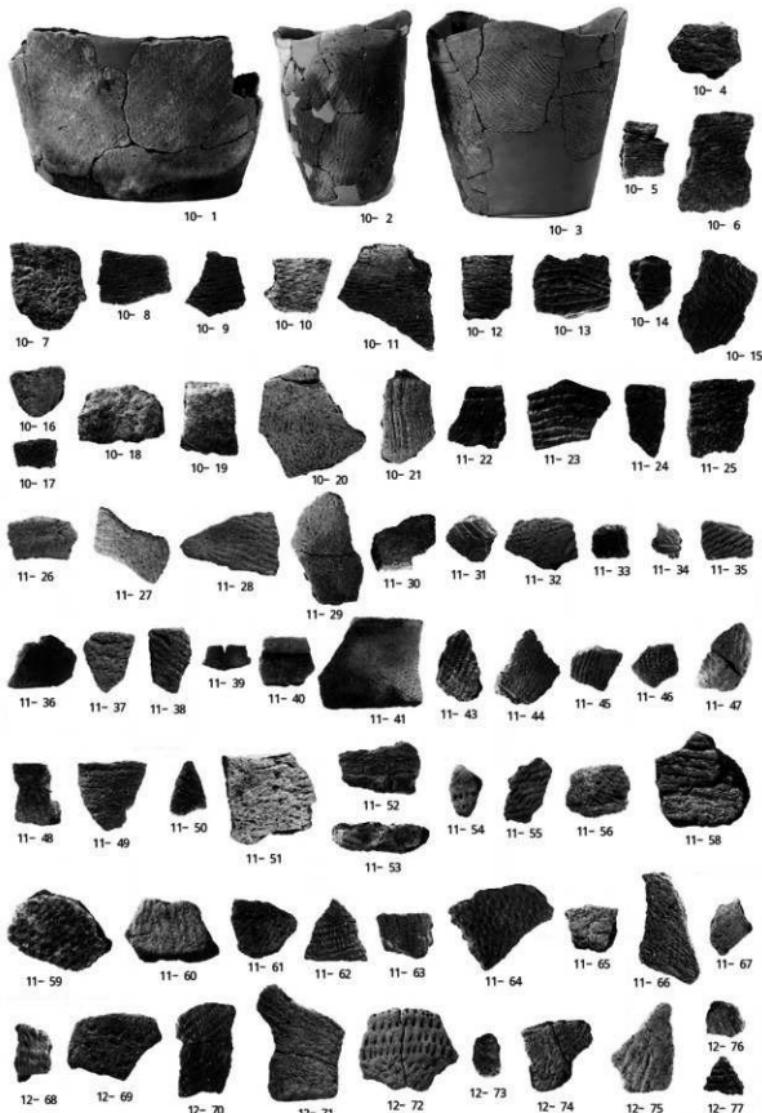


写真4 遺構内出土土器（1）

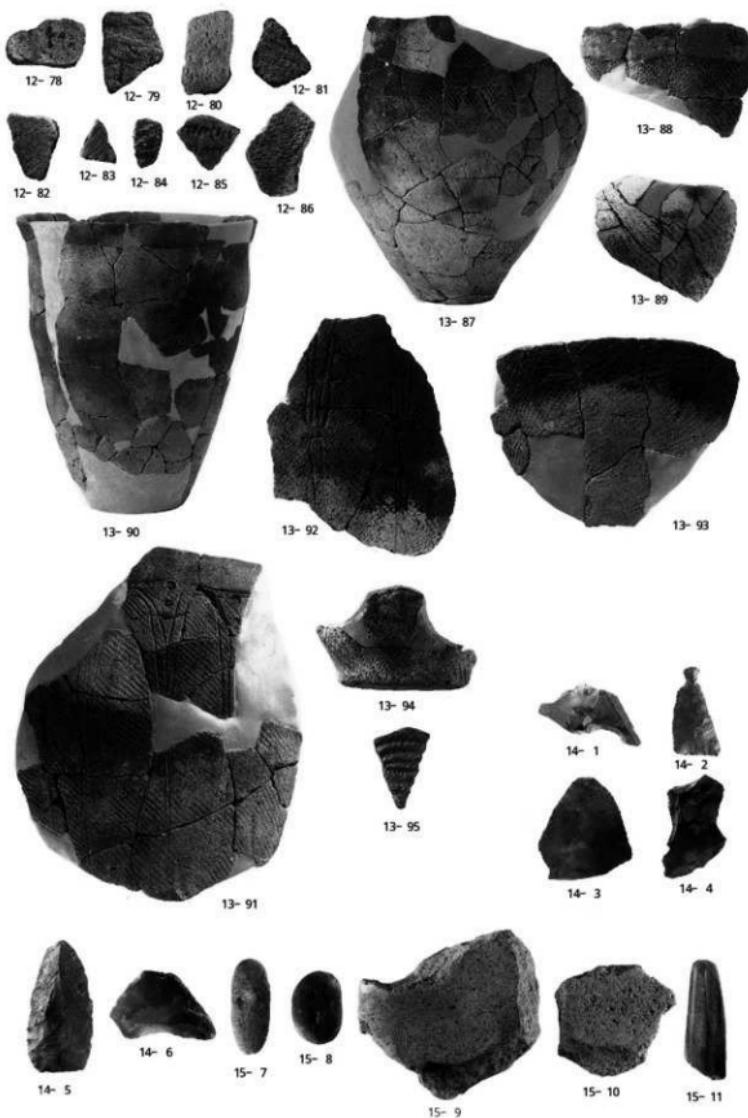


写真5 遺構内出土土器(2)・石器(1)

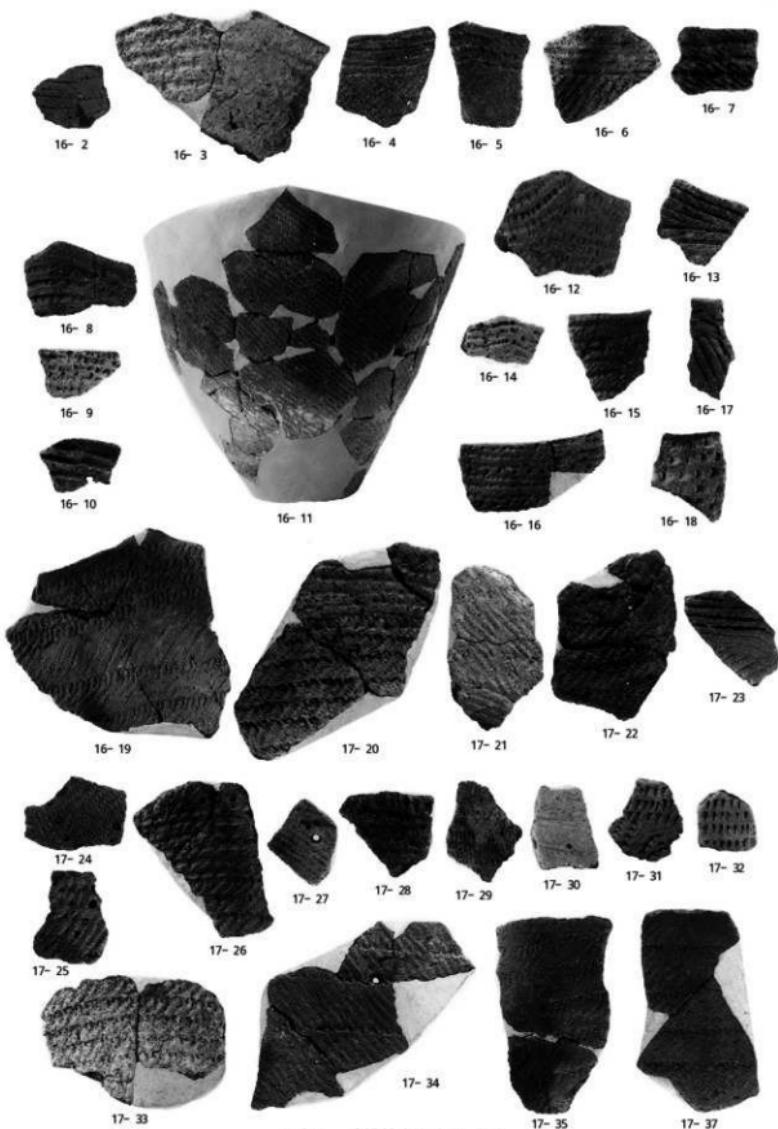


写真6 遺構外出土土器（1）

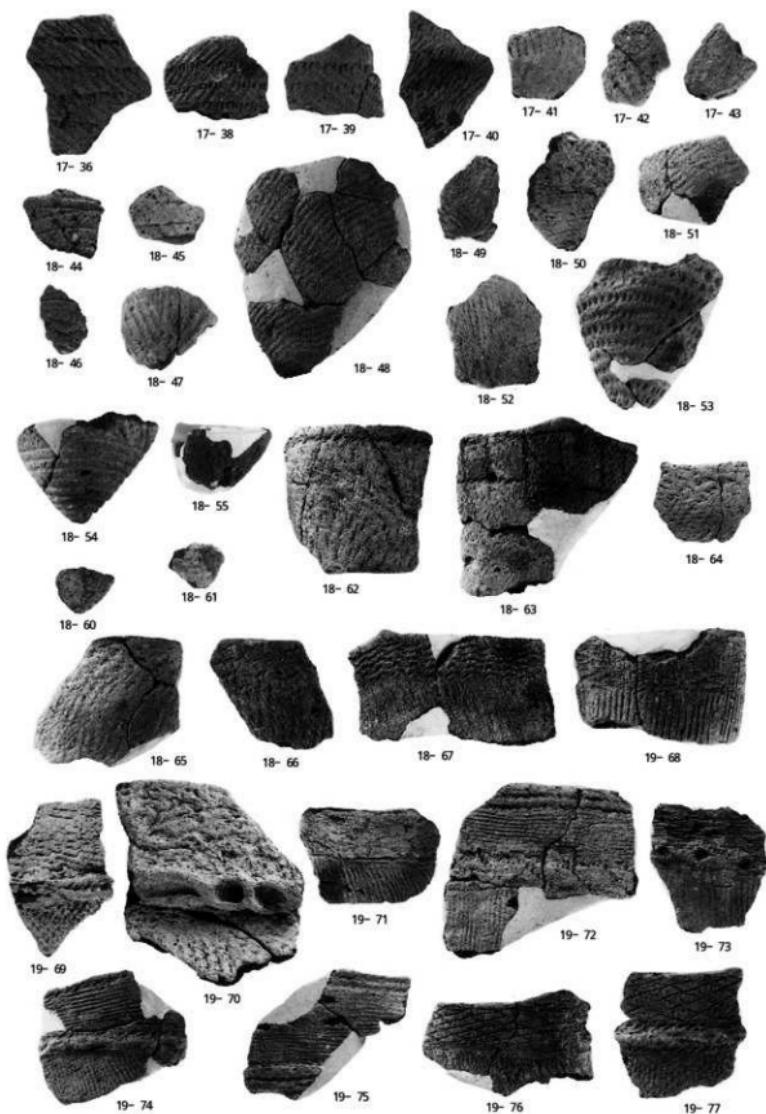


写真7 遺構外出土土器（2）

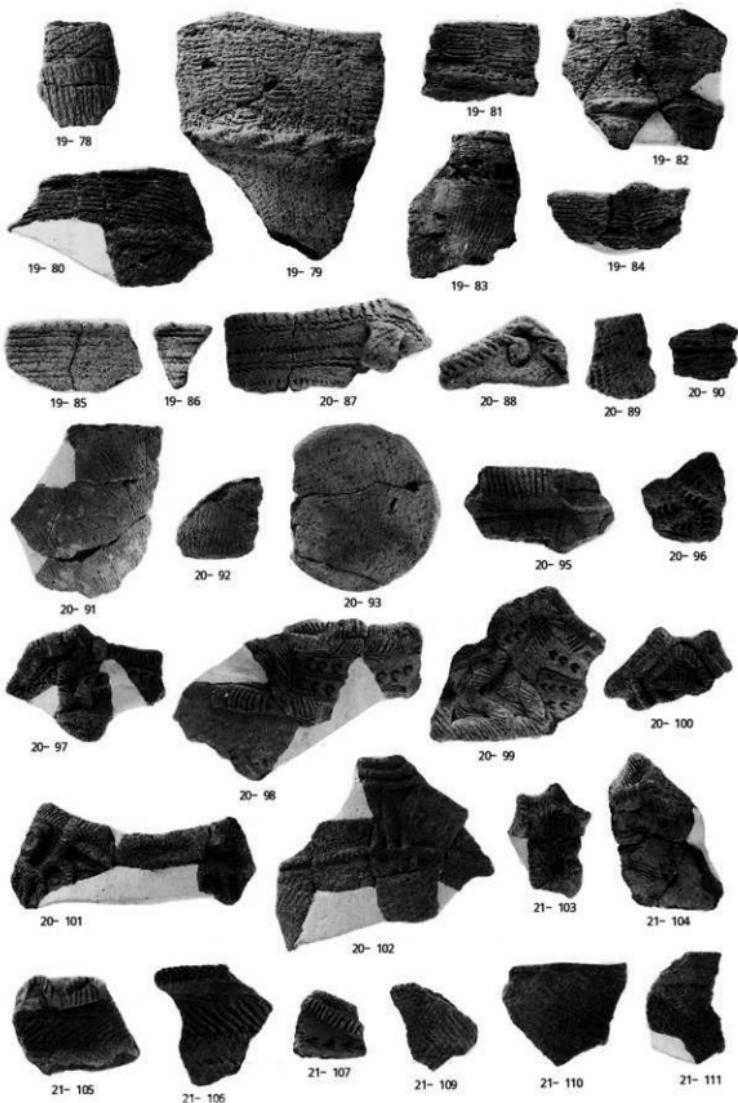


写真 8 遺構外出土土器（3）

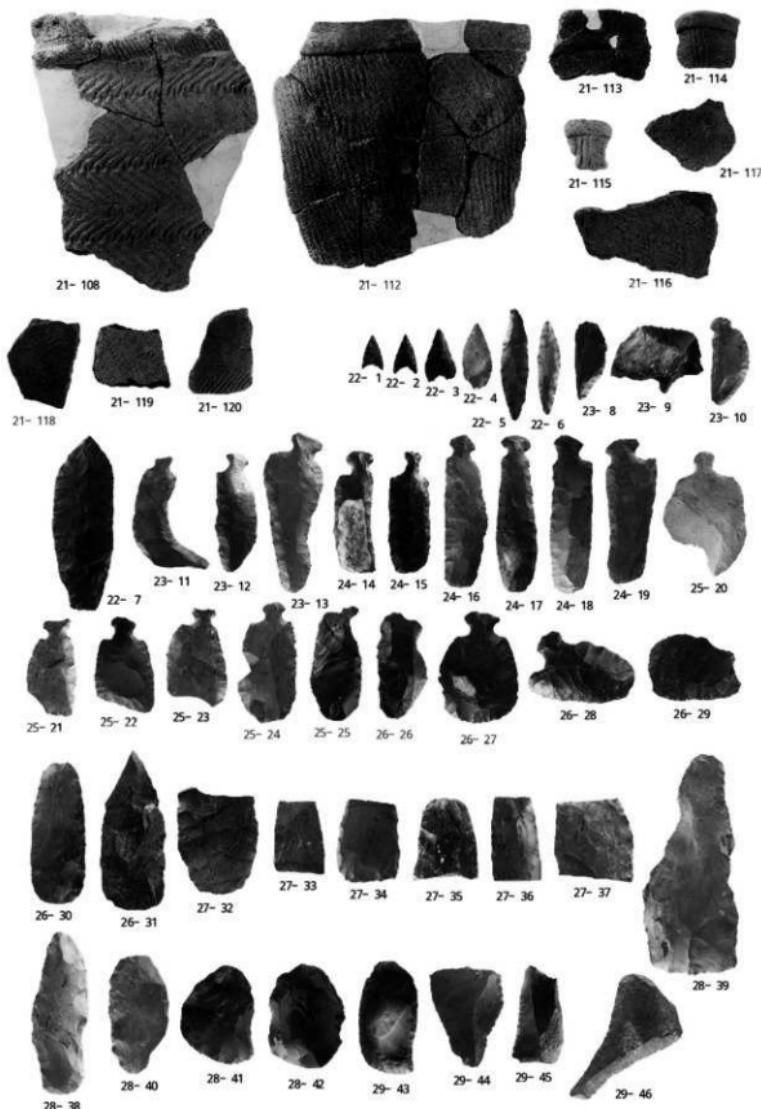


写真9 遺構外出土土器(4)・石器(1)

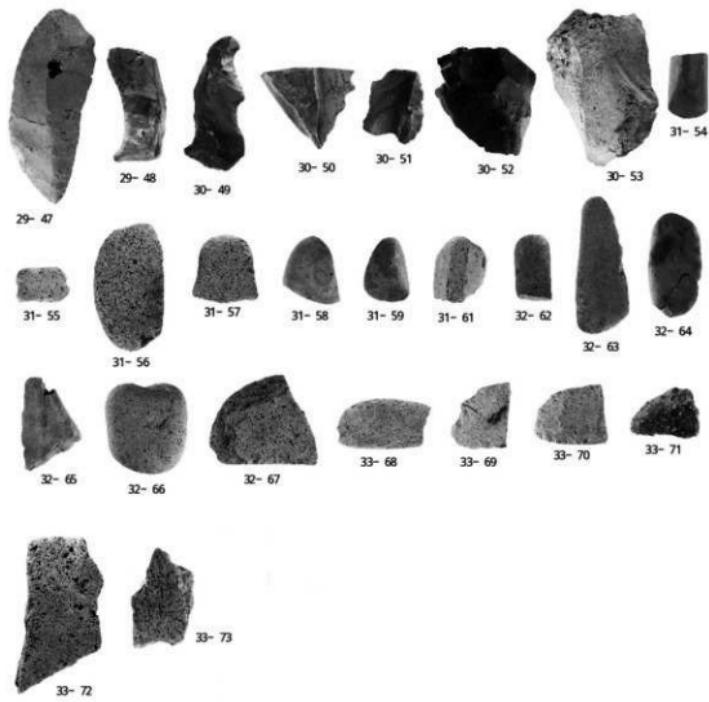


写真10 遺構外出土石器（2）

報告書抄録

ふりがな	ちかのいせきはっくつちょうさほうこくしょ								
書名	近野遺跡発掘調査報告書								
副書名									
巻次									
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第68集								
編著者名	小野貴之								
編集機関	青森市教育委員会								
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL 017-734-1111								
発行年月日	西暦2003年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	世界測定系	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因			
ちか 近	野	青森市大字 安田字近野 276-1	市町村 02201	遺跡番号 01065	北緯 40° 48' 27"	東経 140° 42' 12"	20020726 20020918	1,614	民間事業 (分譲宅地 開発)に係 る事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項		
ちか 近	野	集落跡	縄文	竪穴式住居跡 土坑 小ピット	6軒 11基 11基	縄文土器 石器			

## 既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1962	三内雪園遺跡調査概報	青森市埋蔵文化財調査報告書
"	2 1965	四ツ石遺跡調査概報	" 第37集 1998 新町野遺跡発掘調査報告書
"	3 1967	玉清水遺跡調査概報	" 第38集 1998 野木遺跡発掘調査報告書
"	4 1970	三内丸山遺跡調査概報	" 第39集 1998 市内遺跡詳細分布調査報告書
"	5 1971	野木と遺跡調査報告書	" 第40集 1998 小牧野遺跡発掘調査報告書II
"	6 1971	玉清水III遺跡発掘調査報告書	" 第41集 1998 野木遺跡発掘調査概報
"	7 1971	大浦遺跡調査報告書	" 第42集 1998 無沢遺跡発掘調査概報
"	8 1973	孫内遺跡発掘調査報告書	" 第43集 1999 市内遺跡詳細分布調査報告書
	1979	螢沢遺跡	" 第44集 1999 葛野(2)遺跡発掘調査報告書II
	1983	四戸橋遺跡調査報告書	" 第45集 1999 小牧野遺跡発掘調査報告書IV
青森市の埋蔵文化財	1983	山野峠遺跡	" 第46集 1999 新町野・野木遺跡発掘調査概報
"	1985	長森遺跡発掘調査報告書	" 第47集 1999 稲山遺跡発掘調査概報
"	1986	田茂木野遺跡発掘調査報告書	" 第48集 2000 無沢遺跡発掘調査報告書
"	1987	横内城跡発掘調査報告書	" 第49集 2000 稲山遺跡発掘調査概報II
"	1988	三内丸山I 遺跡発掘調査報告書	" 第50集 2000 小牧野遺跡発掘調査報告書V
青森市埋蔵文化財調査報告書			" 第51集 2000 桜峯(1)・雪谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書
"	第16集 1991	山吹(1)遺跡発掘調査報告書	" 第52集 2000 大矢沢野田(1)遺跡調査報告書
"	第17集 1992	埋蔵文化財出土遺物調査報告書	" 第53集 2000 市内遺跡発掘調査報告書
"	第18集 1993	三内丸山(2)遺跡発掘調査概報	" 第54集 2001 新町野遺跡発掘調査報告書II・
"	第19集 1993	市内遺跡発掘調査報告書	野木遺跡発掘調査報告書II
"	第20集 1993	小牧野遺跡発掘調査概報	" 第55集 2001 小牧野遺跡発掘調査報告書VI
"	第21集 1994	市内遺跡詳細分布調査報告書	" 第56集 2001 稲山遺跡発掘調査報告書I
"	第22集 1994	小三内遺跡発掘調査報告書	" 第57集 2001 稲山遺跡発掘調査概報III
"	第23集 1994	三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書	" 第58集 2001 大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報II
"	第24集 1995	横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書	" 第59集 2001 市内遺跡発掘調査報告書
"	第25集 1995	市内遺跡詳細分布調査報告書	" 第60集 2002 小牧野遺跡発掘調査報告書VII
"	第26集 1995	桜峯(2)遺跡発掘調査報告書	" 第61集 2002 大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書
"	第27集 1996	桜峯(1)遺跡発掘調査概報	" 第62集 2002 稲山遺跡発掘調査報告書II
"	第28集 1996	三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書	" 第63集 2002 稲山遺跡発掘調査概報IV
"	第29集 1996	市内遺跡詳細分布調査報告書	" 第64集 2002 市内遺跡発掘調査報告書
"	第30集 1996	小牧野遺跡発掘調査報告書	" 第65集 2003 雪谷山吹(4)・(7)遺跡発掘調査報告書
"	第31集 1997	市内遺跡詳細分布調査報告書	" 第66集 2003 稲山遺跡発掘調査報告書III
"	第32集 1997	桜峯(1)遺跡発掘調査概報II	" 第67集 2003 深沢(3)遺跡発掘調査報告書
"	第33集 1997	新町野遺跡発掘調査報告書	" 第68集 2003 近野遺跡発掘調査報告書
"	第34集 1997	葛野(2)遺跡発掘調査報告書	" 第69集 2003 市内遺跡発掘調査報告書11
"	第35集 1997	小牧野遺跡発掘調査報告書II	" 第70集 2003 小牧野遺跡発掘調査報告書VII
"	第36集 1998	桜峯(1)遺跡発掘調査報告書	

青森市埋蔵文化財調査報告書第68集

### 近野遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成15年3月31日

発 行 青 森 市 教 育 委 員 会

〒030-8555 青森市中央一丁目22-5

TEL 017-734-1111

印 刷 青 森 口 二 一 印 刷

〒030-0943 青森市幸畠字松元62-3

TEL 017-738-2021



